

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 碧晴会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム川口結いの家)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ (1 / 2)		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りシステム	パラマウントベッド社 エスパシア3 モーター電動ベッド (KA-N1481F)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月13日	10台	令和3年12月10日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】
 センサー内蔵式のベッドとナースコールを連動させ、各居室に配置。見守りセンサーを稼働させ見守りを行っている。

【介護ロボットの導入効果】
 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)
 センサーの精度が高く、起き上がりから離床まで正確に検知されるため、夜間の見守り業務の負担軽減、事故防止への効果を発揮している。
 また、各利用者様の行動の傾向を把握・分析することで、センサー検知に対するスムーズな対応につながっており、より効果的な活用が可能となっている。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人八起社)
 事業所名 (特別養護老人ホーム東和荘)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りケアシステム	エスパシアシリーズ KA-N1571F		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月20日	4台	令和3年12月20日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

「見守りケアシステム エスパシアシリーズ KA-N1571F」を認知症状の多いフロアに全台設置。従来の足元センサーでは、見守り範囲が狭く、それを避けるように移動しようとする行為があるため、通常の立ち上がりにふらつく、マットを避けてふらつく恐れがある方への見守りをする上で、見守りケアシステム(センサーベッド)の活用は非常に有効である。

入所者によって、足元センサー・離床センサーに不快感・拘束感があり、配線を引き出し取り外す行為もあった。そういった行動による転倒の危険もあるため、転倒予防のため設置を行っている。

夜間、頻回に動きのあり転倒リスクが高い入所者には、ベッドセンサー及び足元センサーを併用し、転倒予防のための新たな対策でも活用している。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

従来の足元センサーを踏んで立ち上がる際、足元が安定しないことによるふらつきなども減少し、そういった恐れのある入所者に優先的にベッドを配置する方式になっている。また、コードの引っ張り出し触ったりする行為もなく、落ち着いた生活に一役を担っている。

入所者の特性に合わせて、起き上がり、立ち上がり、長時間の片側での座位保持の見守りが出来るため、入所者の生活リズムに合わせて、対応方法を変え、柔軟な見守りケアシステムを構築している。更新したナースコールと連動し、より視認性・連動性・スムーズな対応が行えることを確認している。

エスパシアシリーズ KA-N1571Fは超低床型であり、キャスター付きで移動もスムーズであり、入所者の状態に合わせてベッドの入替が容易であり、センサー付き超低床型は非常に重宝している。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人長福会)
 事業所名 (デイパーク大府特別養護老人ホーム)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り	見守りケアシステム M2 FBR-N132		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月31日	3	令和3年12月14日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

現在も引き続き見守りケアシステムM2 (FBR-N132) を3台特別養護老人ホームデイパーク大府の居室に配置し、自らでコールを押せないご入居者やご病気等で無理な離床をされるご入居者のベットとして有効に利用できております。それによりご入居者の動きがより細かに把握でき介護者にとっても大変便利なベットとして利用しております。又、以前使用していたベットと比べて大変コンパクトでご入居者の状況・状態に応じてベット本体を移動することも可能であり、その方に合った介護ができ“援助の幅が広がった”と言う職員の声も聞かれます。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

見守りケアシステムM2 (FBR-N132) を利用することでご利用様様の体動や無理な離床行為等が事前にわかり、事故の発生防止や職員の業務の負担軽減につながっており見守り業務・過度な訪室の回数の軽減にもつながり、職員の精神的・身体的なストレス軽減にもなり職員の事故に対する安心感に繋がっております。また急遽で入所され状態の把握が困難なご入居者などの状態把握などにも大いに役にたっております。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
介護職員 常勤 28人 非常勤 18人	介護職員 常勤 26人 非常勤 21人
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
人員の体制には変わりはありません。	
②と③が異なる場合はその理由	
職員の異動や休職等により人員の変化はあったものの総数に関しては大きく変化はありません。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
引き続き事故発生防止に関して法人内研修の実施と事故発生防止会議を各月に1度開催し、法人全体で事故に対する意識の向上、事業所内で起きた事故・ドキドキしたことについて分析する。それにより、職員の意識向上が伺え事故発生の報告は増えましたが昨年度、大きな事故（転倒による骨折等）については法人全体で軽減いたしました。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
誤報センサーによる無駄な、職員移動が格段に少なくなり質の高い介護ができた。適切な時間に休憩が取れるようになり、効率の良い援助が行えるようになった。職員の無駄な動きが減少し、ケアの質を上げることができた。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
さらなる重大な転倒事故の減少 不必要な職員の動きが削減され、仕事の効率化が図れました。 転倒・転落事故等がいつ起こるのか？等職員の精神的な不安が軽減できている。	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (特定非営利活動法人 犬山あんきにくらそう会)
事業所名 (宅老所今井あんきの家)
サービス種別 (小規模多機能型居宅介護)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りベッド	パラマウントベッド エスパイアシリーズ KA-N142F		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月23日	9台	令和4年3月23日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】



低床ベッドのため、車いすからの移動もスムーズに行えている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ① センサーが内蔵されているため、立ち上がり時にナースコールがなるため転倒・転落のリスクが軽減できる。
- ② ナースコールが自分で押せない人でも、センサーによりナースコールがなるため、訪室し様子を見ることが出来る。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2.0 : 1	2.5 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2.5 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>① 見守りセンサーがあるため、訪問の回数が軽減できた。夜間巡視にトータル100分かけていたが、60分に軽減</p> <p>② 介護記録はiPadの導入を購入し、スタッフも記録に慣れてきた。チェックで記入でき、写真の添付も可能なため記録時間は大幅に減少した。</p> <p>③ 申し送り中にも見守りセンサーが稼働しているため、申し送りに集中して行うことができる。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>① センサー付きのベッドのため、夜間の転倒リスクが軽減され、職員の身体的・心理的負担が軽減した。</p> <p>② 見守りセンサー導入により、夜間の定期巡視業務の負担が軽減した。おむつ交換など時間ごとに決められた訪問以外に訪問する回数を減らすことができた。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>① 記録業務の徹底削減</p> <p>② ナースコールで呼ぶことができるため、利用者の安心につながっている。</p> <p>③ 夜間巡視の削減</p> <p>④ 転倒・転落の危険リスクの軽減</p> <p>⑤ タイミングを逃すことなく訪室できる</p> <p>⑥ 介護職員の心理的・身体的負担の軽減</p>	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社 エヌエス)
事業所名 (グループホーム なごみの里)
サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

(注)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	見守り支援システム 眠り SCAN		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月1日	4台	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 必要性の高い利用者様に対して主に夜間帯に使用している。動作状況や心拍数、呼吸数がリアルタイムに把握できるため、睡眠状況を把握したり、ベッドからの動き出しによる転落転倒のリスク軽減に繋げている。また体調不良の利用者様に対しての状況把握にも使用している。			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) これまでは入眠状況の有無にもかかわらず、巡視などで睡眠を妨げてしまうことがあったが、導入により利用者様の開眼状況でのタイミングでトイレの声掛けができ、睡眠の妨げを防ぎ、巡視も減らすことができるようになった。 体調不良や看取り期の利用者様について心拍や呼吸数が遠隔で随時確認でき、職員の精神的な安定を得られている。			

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
4:1	3.92:1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
4:1	
②と③が異なる場合はその理由	
一週間に4時間ずつ減らす予定だったが、フロアに一人ずつの夜勤者なので、4時間は減らせなかった。しかし介護ロボットのおかげで職員の負担は軽減できた。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
夜間の見守りは2-3時間おきに訪室しているが、現在は1フロアに2台ずつ眠りスキャンを導入して定期巡視の一部を廃止し、必要時に来訪するのと転倒防止のセンサーも兼ねて使っている。延べ訪問回数を職員一人当たり、平均8回減らした。紙媒体からタブレット使用になり転記の削減や複数人の入力が可能になり、記録時間が削減した。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
眠りSCANにて利用者様の睡眠状態を把握して介護サービスの質を向上させ夜間時の訪室を減らす。認知症などにより行動が掴みにくい利用者様の状況を早く掴むことにより未然に転倒や転落事故を減らすことができる。タブレットによる記録の統一が図れる。職員による申し送りが減り速やかに休憩に入れる。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
職員の身体的、精神的な負担軽減に繋げられる。利用者支援の充実・ケアの向上。ペーパーレス化による管理労力や管理コストの削減。電源の入れ忘れ等による人為的ミスによる事故の削減。	

資料の統合による効率的な業務の負担軽減。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社 安里)
 事業所名 (株式会社安里 東海橋苑)
 サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		コールマットN・スマート	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年1月24日	3台	令和4年1月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入台数が「3台」である為、対象者を選定。 ・Ns コールの使用が困難、また立ち上がりや移乗時に動作不安定で転倒リスクの高い方やベッドから転落リスクの高い入居者様へ使用。 ・主に夜間、徘徊頻度の高い方へ行動把握のために居室出入口へ設置し見守り、居室誘導を行っている。 ・体調不良時“せん妄”等による不測の事態(転倒・転落・徘徊等)を回避する為あらかじめ設置し療養支援を行った。 			
<p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徘徊で自室に戻れなくなっている入居者様へ迅速に対応できている事で、入居者様への安心と安全の提供が可能となった。 ・当該機器の使用によって、入居者様が適宜必要とするケアが提供可能となった事と転倒・転落等事故を未然に防ぐ事で、職員の精神的負担の軽減と業務効率の促進に繋がっている。 ・体調不良時の療養環境を整えることで、不穏状況を防ぎ適切な医療支援を受け早期に状態回復へとつなげることができた。 			

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社 刈谷ケアサービスさくら)
 事業所名 (短期入所生活介護さくら)
 サービス種別 (短期入所生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	見守りシステム『眠りスキャン』		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年1月31日	20台	令和4年1月31日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

短期入所生活介護にて居室(20部屋)に『眠りスキャン』20台導入する。
 利用者様の睡眠状態をモニターで確認出来る。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

〈介護従事者〉

『眠りスキャン』導入で利用者様が寝ているか分かるため、2時間ごとの巡回していた回数を軽減できた。

利用者様の体調等は巡回しないと分からなかったため、精神的不安があったがモニターで、

「呼吸・心拍数」が分かるため安心できるようになった。

ベッドから降りたことも分かるため転倒のリスクも減った。

〈利用者様〉

巡回の際にモニターで睡眠中の利用者様の居室は時間をずらし訪問するなど、職員が居室に入る回数が減ったおかげで「良く寝れるようになった」「すぐ職員が来てくれるので安心」など、お声を頂いています。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
介護職員6名・看護職員1名・夜勤1名	介護職員5名・看護職員1名・夜勤1名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
介護職員5名・看護職員1名・夜勤1名	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none">・利用者様の状態（睡眠・覚醒）の変化に素早く気づき対応する事で転倒・急変の防止・夕食後、居室に誘導し臥床させる際、帰宅願望などで不穏のなる利用者様を変化が分からなかったため、遅番職員に残業して貰っていたが、モニターで確認できるようになり、残業時間の減少に取り組めた。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none">・巡回回数を減らす事により、職員の休憩時間の確保が取りやすくなった。・モニターによる確認で職員の肉体的・精神的な負担が軽減した。・利用者様の転倒等が飛躍的に減った。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none">・巡回時間にとられていた時間に、他の仕事の時間に充てれるようになり、作業効率アップ・職員の休憩時間確保が以前より出来やすくなった。・利用者様が安全に利用出来るようになり、ご本人様・家族の満足度が上がった。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会医療法人杏嶺会)
 事業所名 (老人保健施設やすらぎ)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りセンサー	眠りスキャン		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年1月11日	20台	令和4年1月11日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

眠りスキャンは各階の該当利用者に対して使用している。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)
 睡眠状況、覚醒状況の把握と傾向に使用しており、睡眠の妨げにならないケア方法の確立と、昼夜逆転傾向になっている利用者に対しての適切なケア方法の確立を行っている。
 また、夜間帯の介護職員を1名減員し、全体の介護職員の総数に変化はないが、昼間勤務を多く配置できる状況となり、昼間勤務時間内で必要な業務を行い、夜間帯は、必要な時間にケアの提供ができることで、利用者側からは睡眠の妨げとならない事と、精神的、身体的にも介護負担の軽減となっている。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜間の介護職員4名と看護職1名の5名体制	夜間の介護職員3名と看護職1名の4名体制により、昼間勤務数の増加
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
夜間の介護職員3名と看護職1名の4名体制 夜勤職員の減員する事で、昼間勤務者数の増加	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
見守りセンサーとインカム（インカム連携）を使用して、やらなければいけないケアが音声で確認し実行している。 記録についてもタブレット端末と介護記録ソフトの連携により、記録の効率性も向上できている。 ICT機器を駆使しながら、様々な場面で起こる不効率な探す業務をなくしその時に本当に必要な業務を行う指示している 夜間帯については、夜間に行うルーティン業務を廃止し人員を削除し、昼間勤務する職員を増やし、日々の事柄が昼間で完結できる体制づくりをしている。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
ICT機器を使用して、当日やらなければならない業務をスリム化して、優先順位を明確化するようにしている。また、スリム化することで利用者への個別性のあるケアを提供する事も指導している。休憩についても介助が必要でない時間帯に休憩ができるようにインカムで柔軟に休憩をとるように指導している。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
介護業務の分業化が可視化（聞こえる化）できる事が普通になる事 利用者とのコミュニケーション以外の業務については、誰がやってもムラなく同じ成果になれるように期待したい。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社さちコーポレーション)
 事業所名 (グループホームさち)
 サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	眠りスキャン・eye		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月13日	18台 (eye4台)	令和3年12月13日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>①全居室眠りスキャンを導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中途覚醒をモニター (またはスマホ) で確認してからトイレ誘導・パット交換を行っている ・体調不良の利用者について、心拍呼吸の記録を連携の訪問看護・医師に提出し、指示アドバイスを受け対応する等で活用している ・起き上がり検知があったタイミングで訪室し、状況確認を行っている <p>②転倒リスクの高い利用者・入居間もなく夜間帯の状態が分からない利用者を中心に4名選定し、プライバシーに配慮したうえで眠りスキャン eye を居室に4台設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転倒事故が発生した場合、発生時の撮影記録を確認し、発生の防止策検討に活用 ・夜間帯の居室内での様子を撮影記録で確認し、アセスメントに活用 (一定期間で取り外す等必要以上に設置しない) 			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)</p> <p>①個別支援計画の資料として、夜間帯の排泄リズム・睡眠状態・生活リズムの把握に効果あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ誘導 (パット交換) のタイミング ・就寝時間・起床時間の目安 ・眠剤の効果の評価、BPSD への対応 <p>②覚醒時の起居・移動動作不安定者の転倒防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・eye (カメラ) の記録からより具体的な予防策を検討しやすくなる <p>③体調不良者の状態観察や体調変化の早期発見につながる</p> <p>④職員の負担の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手元のスマホで状況確認が行えることによる見守り等に係る時間の軽減につながった ・利用者を職員都合で起こさなくても良いことから、精神的な負担の軽減につながった 			

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
0.9:1	0.8:1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
1:1	
②と③が異なる場合はその理由	
職員の退職・異動等が今後発生することから、人員変更前に交代職員を増員したため	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、利用者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避けた ・「眠りSCAN」の通知機能を活用し、夜勤者が携帯するスマートフォンに動きのあった利用者様の情報が入り、タイムリーかつ必要な際にのみ職員が対応に動くことができるため、従来の「定時巡視」から「適宜巡視」に変えていき、効率化を推進した 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、利用者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。覚醒したタイミングに合わせて排泄ケアや訪室を行った ・スタッフルームや休憩室にいる間も、PC・モバイル端末にて、リアルタイムの各利用者様の状態確認ができるようにした ・巡視の方法を「定時巡視」→「適宜巡視」に変更した ・睡眠リズムのデータを医師と共有し、状態にあった睡眠導入剤の処方や見直しを行った 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の状況に合わせたケアを行えるため、ケアの質の向上や利用者様ごとに合わせた個別ケアがさらに改善された支援となる ・利用者様を無駄に起こすことがなくなるため、利用者様の睡眠時間を確保できるようになる。 ・利用者様の睡眠時間確保できるようになれば、利用者様からのコールの回数や呼出しが減るため、スタッフの休憩時間確保につながる。 ・巡視方法の変更により、巡視にかかる時間が大幅に減るため、今までできなかった他業務に時間を回すことができる 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社フレンズハウス)
 事業所名 (グループホーム フレンズハウス七番町)
 サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	眠り SCAN		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
3 令和4年11月20日	4	3 令和4年11月19日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>夜10時から朝6時まで、18名中4名入居者に設置した。タブレットを使用して遠隔リアルタイムでモニタリングを実施し、睡眠状態を確認しながら巡視回数を減らした。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要以上の訪室を減らすことができ、入居者の安眠につなげることができた。 ・巡視回数が減ったため、夜間業務にゆとりと安定した休憩時間の確保ができ、身体的負担の軽減につながった。 			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
81 : 1	69 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
69 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
入居者18名中4名に見守りセンサー（眠りSCAN）を設置し、夜間の睡眠状態を遠隔リアルタイムでモニタリングしている。夜10時から朝6時までの間モニタリングを実施し、睡眠状態が安定していることを確認して巡視回数が通常の1/3程に減少した。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・必要以上に訪室することがないため、入居者の安眠につなげることができた。 ・巡視回数が減ったことにより、職員の業務にゆとりができ、まとまった休憩時間をとることができた。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
安定している入居者に使用することにより、安眠を促すことを目的に使用できているが不安定・不穏な入居者に対して使用することで、異常の早期発見、事故防止につなげることができる。また台数を増やすことで、より職員の負担軽減につながると思われる。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人すいと福祉会)
 事業所名 (特別養護老人ホームふぁみりい恕苑)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	「眠り SCAN」パラマウントベッド株式会社		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月15日	72台	令和3年11月15日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・ユニットに配置されているパソコンや iPad を利用して入居者様の睡眠状況や覚醒状況の把握と分析に使用している。
- ・離床センサー機能もあるため、睡眠状況だけではなくセンサー機能としても活用できる。
- ・心拍数、呼吸数、動作状況をリアルタイムで把握し、業務効率化に繋がっている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・これまでは入眠状況の有無に関わらず、定時訪室などで入眠を妨げてしまうことがあったが、導入により睡眠状況を把握でき入居者様の安眠にもつながった。
- ・リアルタイムで動きが把握できるため、職員の過度な居室への訪室回数が減少した。
- ・睡眠や覚醒データを把握することにより、その方の睡眠リズムを把握する事ができ、安眠だけではなく、スタッフの夜間業務の効率化に繋がった。
- ・看取り期の入居者様についても、スタッフの精神的な安心感を得られている。
- ・睡眠データの蓄積を分析できるようになり、日々のケアの参考になっている。
- ・呼吸数でのアラートが体調不良と連動しているため、体調把握しやすい。

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

<p>① 従前の介護職員等の人員体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に早番、日勤、遅番、夜勤のシフト体制で2時間毎の定時巡視。夜勤職員が1人になる夜勤帯には特に精神的かつ肉体的にも負担が大きい。 ・入居者様の重度化により、直接介護業務が増加し、見守り職員確保が困難になりつつある。 	<p>② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臥床時間中の定時訪問を見直す事により、業務に余裕が生まれ、巡視業務の人員負担を全体で常勤換算2.0人程度軽減が見込まれる。 ・ユニット毎での業務分析を行い、業務改善や入居者様と触れ合う時間を増加させることができる。
<p>③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜勤職員の人数は最低基準もあり変更無いが、昼間は入居者様と触れ合う時間の増加につながった。しかし、直接巡視は減ったものの、眠りSCANの「離床検知、覚醒検知」など反応があると積極的に訪室しており、職員の実働時間は大幅には減らなかったが、事故等の予防には繋がっている。 	
<p>②と③が異なる場合はその理由</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・定時訪室は減ったが、眠りSCANの「離床検知・覚醒検知」による反応での訪室は増加した。 	
<p>見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフルームにてパソコンモニター越しに利用者様を見守ることにより、訪室することなく利用者様の睡眠状況を把握でき、「熟睡している時は訪室しない」などオペレーションを変更した。 ・居室で過ごす利用者の「睡眠・覚醒・起き上がり、離床」と臥床時の心拍数と呼吸数をリアルタイムで確認でき、覚醒者への対応を早急にするなどケアの優先順位を立てる事により、職員が効率的に業務でき事故リスクの低下にもつながった。 ・睡眠状況を記録作成時に何度も記録を転記する必要があったが、介護記録の電子化を行い情報の一元管理を行う事で、記録作成の負担が軽減。また、入居者情報の共有が可能となった。 ・介護業務の中での多忙な時間帯の把握と効率化につながった。 	
<p>利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは定時巡視や定時のおむつ交換をすることにより、入眠中の利用者様を起こしてしまいケアの質低下を招いていたが、眠りSCANを活用により、入居者の睡眠状況がリアルタイムで把握でき、最適なタイミングでの訪室や介入ができるようになる。これにより利用者様スタッフ共にメリットが大きい。 ・日々の睡眠状況を把握し、睡眠直前のおむつ交換をしないなど、利用者の状況に応じたケアを行う事ができる。これにより熟睡できる利用者様の増加が見込まれる。 ・これまでは休憩中にもコール対応する事があったが、睡眠状況の可視化により睡眠パターンや生活リズムの把握ができ、職員の休憩時間の確保や精神的にも身体的にも負担軽減となる。 ・臥床している利用者の心拍数や呼吸数も検知してアラート対応もできるため、バイタルサインの変化や心肺停止状態など、急な体調変化にも対応できる。 ・個人の睡眠状況を把握することで、日中と夜間に適したケアプランの作成につながる。 	
<p>これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜勤帯を中心とした職員の精神的負担の軽減（介護負担による離職者の減少） ・利用者様及び家族様への睡眠状況の可視化による説明 ・バイタルサインの変化、急変時や体調変化の早期発見と転倒などの事故防止 ・睡眠導入剤や安定剤投与効果の検証 ・多職種間での情報共有 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (特定非営利活動法人るんるん)

事業所名 (グループホーム「風楽里」)

サービス種別 (認知症対応型居宅介護)

適用を受けた補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守り支援システム「眠り SCASN」	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月16日	3台	令和3年12月16日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>眠りの状態の観察に利用</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>眠りの状態を視覚化することで、利用者理解につながっている。</p> <p>介護時間の軽減には効果が今のところは見られない。</p> <p>SCANすることで、介護の負担が減ることはないが、眠っていると思っていたが、実際は不眠の状態だとわかり、日中の傾眠や反応の悪さの一因であることが理解できた。</p> <p>現在も同様で、ご本人の健康状態を知る参考にしている。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導
-----------------	------------------------

	入後に見込む介護職員等の人員体制
夜勤者1名	夜勤者1名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
変化なし	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
見守りセンサー	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>昨年と同様で、眠り状態を可視化して、ご家族やかかりつけ医に開示してご本人理解の一助となった。</p> <p>職員の精神的ストレスの軽減になった。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>特にはないが、夜間の不眠に状態が理解できるが、より頻回に巡回することに繋がっている。</p> <p>ご本人の危険予防にはなるが、介護の負担は少々増えたような気がする。</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (特定非営利活動法人るんるん)

事業所名 (グループホーム「風楽里」)

サービス種別 (認知症対応型居宅介護)

適用を受けた補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		エスパシアシリーズ KA-NN1481F	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月16日	3台	令和3年12月16日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>入居者様3名の居室に設置</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>安楽な起居動作の支援につながっている。</p> <p>お一人お一人の体形に合った高さの細やかな調整が出来ることで、ご本人の持っている力を生かしたケアが出来るようになった。また、スムーズな動作と高さ調整が可能のため、介護者の負担軽減につながっている。</p> <p>夜間のベットからの転倒防止に最低床で使用している。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜勤者 1 名	夜勤者 1 名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
変化なし	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
居起動作にすぐに気が付き素早く対応することが出来る。 利用者様の要望に迅速に対応し待ちの時間が減った。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
ベッドからの転落の可能性のある方へベッドを超低床としての対応の検討をした。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
今後、布団生活だった方やベッドからの転落の危険のある方が安心して生活ができるような環境整備が出来る。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社ウェルヴィレッジ)
 事業所名 (介護付き有料老人ホームウェルホームからん)
 サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
介護施設見守り	眠りスキャン (パラマウント社製)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月23日	20台	令和4年3月3日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

入居者の状況により設置すべき人を20人選択しベッドに装着。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

導入時から主に夜勤時の見守りとしてiPadで状況を見ながら対応しており、時間によっておむつの状態を調べていたが、スキャンにより睡眠状態が熟睡の状態のときは訪室しないようになった。

- ・入居者の睡眠リズムが把握でき、生活状態も見える化できた。
 特に、新しい入居者の睡眠状態を24時間通して結果を見ることで、夜間に熟睡しているかどうかを初期に把握し、日中のケアに生かしている。
- ・既存の入居者についても夜間時の睡眠状態や覚醒時間をグラフで見ることができ、普段と違いがないか、また、生活リズムを整えるための情報となっている。
- ・職員がその利用者ごとに覚醒時の画面状態やそれに伴う入居者の行動を把握できて、転倒や転落リスクを軽減につながる。
- ・入居者が熟睡していることが分かると、職員の心理的、身体的負担を軽減できる。
 特に、元気な認知症でない入居者の睡眠時の状態が分かることで心理的負担を軽減できていることも大きい。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2.4 ; 1	2.6 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2.9 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
眠りスキャンを導入することで、見守りにかかる業務時間が減り、また法人内別事業に既存人員を転属させることができた。予想以上の人員体制に対する効果が出ている。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
・眠りスキャンにより、入居者の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避けるようになった。特に夜勤の休憩時間がしっかりと取れるようになった。 ・従来の「定時巡視」から「適宜巡視」に変えていき、効率化を推進している。 ・不要な訪室やおむつ確認業務が削減でき、利用者の不穏になる回数も減り、職員の心理的安定が確保され、業務効率化ができています。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
・眠りスキャンの通知機能を活用し、職員が携帯するiPadやスマートフォンに、動きのあった入居者の情報が入り、タイムリーかつ必要な際にのみ職員が対応に動くことができるようになった。実際に呼吸数が乱れた利用者すぐに駆け付けることができ、ドクターと連携をとり、早期入院につながり、利用者の安心・安全強化につながった。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
・入居者の状況に合わせたケアを行えるため、ケアの質の向上や入居者様ごとに合わせた個別ケアが実現できる。 ・入居者を無駄に起こすことがなくなるため、入居者の睡眠時間を確保できるようになる。 ・入居者の睡眠時間確保ができるようになれば、入居者からのコールの回数や呼出しが減るため、スタッフの休憩時間確保につながる。 ・巡視方法の変更により、巡視にかかる時間が大幅に減るため、今までできなかった他業務に時間を回すことができる。イベントの準備や委員会の業務が残業や休出ではなく、時間内にできるようになる。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 王寿會)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 王寿園)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		見守り支援システム「眠りSCAN」	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月8日	22	令和3年10月20日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼夜逆転気味の方や状態悪化(特変)の可能性のある方に使用している。 			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠状態を把握する事で、適切な排泄タイミングを見計らいパット交換やトイレ誘導を行う事が出来ている。 ・状態が悪い方を常にタブレットで確認できる為、安心して業務に取り組む事が出来る。 ・昼夜逆転気味の方の生活リズムを見直す事で、夜間の良眠に繋がっている。 ・看取りの方に使用することで、状態把握ができるため、亡くなられた際にすみやかに対応が可能になった。 			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
25 : 1	25 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
25 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
・導入以前は、夜間の排泄介助は一律に巡回し行っていたが「眠りSCAN」を活用することで、対象者の覚醒のタイミングで排泄介助を行う。 上記の取り組みとして、入居者の睡眠データから睡眠リズムを割り出し巡回・排泄スケジュールを作成することで効率化を図っている。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
・看取りの方に使用し、心拍・呼吸データを医師、看護師へ報告し、状態把握の資料として職員の情報共有を行う。 ・失禁してしまう方をリアルタイムでモニターし早期発見、ケアに活用する。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
・夜間の巡回・排泄介助スケジュールを作成することで、不必要な排泄介助を削減し介護時間の短縮が期待できる。また、入居者の覚醒時に介助行うことで、眠りの質を良くできる。 ・失禁してしまう方に活用することで、寝具や衣類の汚染などを未然に防ぎ職員の負担軽減し、入居者にも清潔にすごして頂ける。 ・看取りの方に使用することで、状態把握を行い職員の精神的負担軽減につながる。また、御家族や嘱託医への細やかな報告ができる。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 王寿會)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 王寿園)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		エスパシアシリーズ 離床CATCHIII	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月8日	20	令和3年10月20日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナースコール使用困難で転倒リスクのある方に使用している。 ・ベッド上での介助が必要な方にも使用している。 			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・端座維持のずり落ち・転倒を未然に防ぐ事が出来ている。 ・電動でのギャッジアップが可能のため、職員の身体的負担軽減につながっている。 ・ベッド上での食事介助の際に、適切な角度での統一した介助を行えている。 			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
25 : 1	25 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
25 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
・起き上がり・端座位等入居者に合わせた通知を設定する。 ・センサーの反応データ化し、把握することで巡回・排泄介助スケジュールを作成する。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
・入眠時、食事介助時のベッドの角度設定を、入居者に合わせマニュアルを作成する。 ・センサーの反応データをもとに、起床前の声掛け・トイレ案内を行う。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
・起き上がり・端座位等入居者に合わせた通知を設定することで、入居者に合わせたタイミングで対応が可能になり、業務効率が向上した。 ・正確な通知が行われる為、転倒・転落事故を未然に防ぐ事が出来ている。 ・入眠時・食事介助時のベッドの角度設定を、デジタル表示で確認できる為、入居者に合わせたマニュアルを作成することで、食事介助時は、誤嚥を防ぎ、入眠時は良眠して頂いている。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人清明福祉会)
 事業所名 (建国ビハーラてんまん)
 サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	眠りスキャン		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年1月	2セット	令和4年1月13日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・フロアごとの Wi-Fi を強化した上で、各フロア会議で決議したデータ取りの必要性が考えられる利用者2名の眠前薬使用後以降の入眠、覚醒、起床状況の把握とデータ取りとして使用。
- ・日付別で細かな入眠、覚醒、起床データの見える化と振り返りデータとしての蓄積。
- ・訪問診療時に Dr へのデータ提出 (お薬の効果の見える化)
- ・臥床時の呼吸や心拍のリアルタイムでの把握。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・日々、利用者2名の入眠、起床状況の細かな把握と連続的なデータ取りが出来る点。
- ・過度な巡視、見守りを行う事で利用者の入眠の妨げになる不安が解消される。
- ・PC画面上で利用者の覚醒タイミングを早期把握が可能となった点。
- ・ベッドセンサー以上に細かな体動に対する反応があり、夜勤者がPC画面を見ている時であれば、よりリアルタイムな対応につながっている点。
- ・データの蓄積がすぐに見える化される為、協議検討のスムーズ化につながる。
- ・ベッドセンサーの代替機としての候補のひとつとなり得る可能性の考察ができた点。
- ・居室内スペースのさまたげとならない点。
- ・臥床時の呼吸や心拍のリアルタイムでの把握が可能である点。
- ・夜勤者の不要であった場合の居室訪問回数の軽減。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
介護・看護職員の人員配置 3.87:1	介護・看護職員の人員配置 3:1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
介護・看護職員の人員配置 5.5:1	
②と③が異なる場合はその理由	
利用者の重度化に対応するため、人員の増加をすすめた。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
夜勤帯の巡視回数を見直し、職員の負担を軽減させた。 利用者の重度化に対応し、体調の変化や急変時にバイタル測定をし、データ化する。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
利用者の睡眠、覚醒の状況を把握することで、排泄介助、起床介助のタイミングを計り、利用者の生活リズムに合わせたケアの取り組み。 夜間帯の過度な巡視を減らす。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
夜間帯の巡視回数を減らし、職員の夜間帯の休憩時間を確保する。 利用者ごとの生活リズムを把握し、個別ケアを実践できる。	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 長生福寿会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 二方の郷)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	HitomeQ ケアサポート		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月1日	90	令和 4年3月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>3月から正式稼働し、職員の使用に対する習熟のフォローアップ研修を定期開催した。また、入居者様の個々の設定を正式稼働後1か月後に見直しし、その後は随時状況に合わせて柔軟に変更している。3～4か月に1回HitomeQのサーバーよりデータ収集、解析をしていただき、利用状況の確認、より有効な活用方法についても検討会を実施している。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>活用によって介護事故を防げたケース、今まで見えてこなかった事故発生前後の状況を映像データで各職員に周知するとともに、事故防止委員会等でも事例検討に活用した。1年の使用を通じて、訪室の必要性の如何を職員が判断し、事故防止における優先度の判断材料となっている。事故発生時及びヒヤリハットデータの作成時にも映像記録の日時を記載し、回覧時に状況確認ができるようになった。以上をもとに個々の入居者様への適切なモード設定を行い、安心・安全を入居者へ提供することにつながると考えている。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
日中 24名 夜間 8名	日中 24名 夜間 8名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
日中 24名 夜間 8名	

②と③が異なる場合はその理由

見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組

1フロア3ユニットの施設構造のため、現在フロア2名で夜勤業務を行っている。HitomeQケアサポートを導入することで離れた場所でも複数同時に、早期に映像確認ができるため、フロアをまたいだ駆け付けが可能となる。これにより、2フロアに対し、3名の夜勤体制の運用が可能となる。

利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組

夜間の巡回回数の減少と、日中も不要な訪室の減少が見込める。
日中10回→8回(20%減) 夜間8回→6回(25%減)

これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること

夜間1時間に1回の巡視業務の負担軽減により、介護職員の精神的・肉体的負担の軽減が図れる。利用者様の居室への訪問回数が減ることにより、安眠できる時間が増え、利用者の満足度、QOLが上がる。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人エール西尾)

事業所名 (特別養護老人ホーム 三和の里)

サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	見守り支援システム 「眠りスキャン」		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年 1月28日	1セット	令和4年1月28日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者及び体調管理が必要な利用者、夜間帯覚醒時の支援必要者に適宜使用。 ・睡眠状態や生活リズムの把握により、日常生活のリズムを整え、また転倒のリスク回避や排泄介助のタイミングなどの支援に努める。 <p>使用については、支援チームでアセスメント後、必要性がある場合のみ使用する。 家族に説明し同意後の試用とする。</p> <p>*プライバシーに配慮した支援内容とする。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキャンの反応により、早目に利用者の元に駆けつけられたことで、事故を未然に防ぐことが出来たという事例が上がった。 ・体調不良者の状態観察や体調の変化の早期発見が出来、早目の受診等に繋げることができた。 ・睡眠状態が不安定な利用者のデータを主治医に提出して、眠剤等の内服コントロールに繋げることができた。 ・適切な排泄介助のデータと睡眠状態や生活のリズムの把握に有効であった。 ・覚醒、離床時の起居、移動動作不安定な対象者の転倒防止と迅速な対応が可能となった。 			

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人あやめ会)

事業所名 (有料老人ホームつくし)

サービス種別 (地域密着型特定施設入居介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	眠りスキャン		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月 26日	29台	令和3年11月26 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

居室のベッドに設置、電波を飛ばしモニターへ転送されている。

職員室にモニターを設置しており夜間の睡眠状態を把握できる環境になっている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

主に、夜間多動な方、転倒リスクの高い方の見守りがしやすくなっており転倒事故が減っている。

主に介護者の負担が軽減している。

介護ソフトに連動しており夜間帯の睡眠状態のモニタリングが可能。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
利用者様3人に対し一人	利用者様3人に対し一人
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
利用者様3人に対し一人	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
データとロボットが連動しており睡眠状態を把握し、ケアに反映することが出来る。 夜間多動により訪室回数が多い利用者様の負担が減っている。そのため訪室時の物音で起こしてしまうリスクが減っている。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
職員室にモニターを設置し全部のロボットの稼働状況が把握できるようになり負担が減っている。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
原状改善できており継続していきます。	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 瑞祥)

事業所名 (特別養護老人ホームビラ・オレンジ)

サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りシステム	エスパイアシリーズベッド KA-N1411J (離床 CATCH 内蔵) (パラマウントベッド株式会社)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月 20日、21日	96台	令和3年12月21日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 ・ベッドに内蔵されたセンサー (離床 CATCH) を使用し、利用者様それぞれの状態に合わせたセンサー設定 (起き上がり / 端坐位 / 離床 / 見守り) を日中の静養時間、夜間帯に使用する。 ・体動の多い利用者様にはセンサー以外に低床にして対応する。			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等) ・センサーを導入したことで夜間帯の巡回、見守り頻度を減らすことができ、業務の効率化となり、職員の身体的負担や精神的負担の軽減につながり、人材の定着や確保に繋がった。 ・センサーは細かく設定できるため、利用者様の動作に応じた設定が可能となり、利用者様がベッド上で起き上がる等、体動がみられた直後にセンサー通知がされるため、素早く利用者様の状況を把握することができ、転倒・転落事故の予防に繋がった。夜間帯だけでなく、日中の巡回、見守りの負担も軽減され、ホール離床されている利用者様へ対応できる時間も増え、職員の負担だけでなく利用者様の生活の質の向上にも繋がった。 ・ベッドの高さの調節幅も大きくなり、職員の介護負担の軽減に繋がった。また、従来のベッドより低床となり、利用者様の転倒・転落があった場合でものケガのリスク軽減に繋がった。			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
介護、看護職員の人員配置 2.5:1	介護、看護職員の人員配置 2.7:1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
介護、看護の人員配置 2.7:1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>予測しがたい突然の起き上がりや立ち上がりなどの行動を常時把握し転倒や転落リスクを低減させるために頻回な巡回や見守りを行う必要があった。しかし、見守りセンサーを導入活用することで、ベッド上の利用者様の荷重の変化を検知し、立ち上がりや端坐位などの離床行動に変化があった際、ナースコールに連動し通知されるため、転倒・転落の危険を素早く察知し利用者様の行動の見守りや対応が行えるようになり、巡回及び見守りの頻度を減少することができ業務の効率化を図ることができる。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>① センサーを導入したことで、日中・夜間の巡回及び見守りの頻度を減らすことができ、業務の効率化ができ、職員の精神的負担や身体的負担の軽減ができる。</p> <p>② ベッド上での利用者様の動作を素早く察知でき、転倒・転落の予防に繋がり、骨折や外傷を伴う事故を未然に防止し、利用者様及びご家族が安心して生活できるようにする。</p> <p>③ センサーの活用により巡回及び見守り頻度を減少させ、業務の効率化を図ることで、利用者様に対して質の高いケアを提供することができ、利用者様の満足度向上や職員のモチベーション向上につなぐことができる。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>① 利用者様のベッド上での行動パターンを把握することで、安全かつ個別性を尊重した自立支援介護に繋がる。</p> <p>② 離床を常時把握して迅速な対応ができるため、転倒や転落事故を未然に防止することができる。</p> <p>③ 日中・夜間ともに巡回及び見守りへの時間を削減でき、利用者様との時間を増やすことができ、利用者様の生活の質の向上に繋がる。また、職員の身体的・精神的負担も軽減し、業務の効率化が行え、モチベーションの向上することで人材の定着が期待できる。</p>	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 元気寿会)
事業所名 (特別養護老人ホーム 葉栗の郷)
サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	マットセンサーM-68・小電力型ワイヤレス接点ECE5301・取付けアダプター		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月30日	5	令和3年11月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 フットセンサーを転倒・転落の危険のある入居者の部屋にあるベッド足元に設置し、入居者の足がフットセンサーに触れた際、職員が駆けつけ転倒・転落の事故を回避できている。			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) 入居者が自由に寝起きできる環境の中で、入居者の様子を伺いに頻繁に訪室していたが、フットセンサーの活用により必要最低限の訪室となった。夜間時も入居者の睡眠を妨げることが減った。訪室の回数が減った時間を使い入居者の要望や希望に沿った支援が増えた。			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
<p>転倒リスクの高い入居者への対応に、他職種や他部署が協力していた。</p> <p>(日中:ユニット職員3人+看護師、ケアマネ、相談員、事務員の職種のうち1名が対応。夜間は職員1人で対応するが、1時間ごとに訪室し、安全確認を行っている)</p>	<p>他職種や他部署の職員の見守りの協力が減り、ユニット職員だけで対応が可能となった。</p>
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
<p>他職種や他部署の職員の見守りの協力が減り、ユニット職員だけで対応が可能となった。</p>	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>フットセンサーの活用により、転倒のリスクが高い入居者に対して、訪室回数が1時間に1回程度の訪室だったのが、2時間毎訪室、フットセンサーが鳴った時に訪室ようになり、訪室回数が半減できた。訪室回数が減った時間で入居者の要望や希望に沿った支援ができています。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>フットセンサーの導入前は、居室での転倒リスクが高い入居者への訪室が頻回であったが、フットセンサーの活用により訪室の回数が減り、さらに利用者の行動が把握できたことで人員の確保が必要最低限となった。そのため削減となった時間や人員は、他の入居者への手厚い支援ができるようになった。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>休憩の時間の確保、有給休暇も職員の希望通りに取得できるようになった。職員の精神的負担が軽減することでゆとりのあるケアができ、離職率が低くなる。</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 福寿園)

事業所名 (特別養護老人ホーム ひまわりの街)

サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	HitomeQ ケアサポート コニカミノルタ製 QOL ソリューションズ		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月14日	80台	令和3年11月22日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・全個室に見守りを目的としたセンサーカメラを設置。個人のリスクに応じてセンサーの設定を行うことでリアルタイムでの静止画・ライブ映像で可視化できるため、すぐに対応すべきか？見守りで大丈夫か？判断し活用できている。また、センサーの活用により夜間など入居者の睡眠の妨げにならないように不必要な訪室が減り、職員の行動の無駄が減らせた。
- ・コニカサポートセンターより、入居者のセンサー設定が過剰な職員への業務負担となっていないか？また、職員はシステムそのものをどのレベルで活用できているか？実態をデータ解析し評価を受けている。
- ・センサーの範囲内での事故があった場合は、事故の記録データから状況解析を行い、可視化した情報をもとに事故対策を立てて再発防止策を打ち出している。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・センサーマットを使用していたが、個別設定で起床時・離床時で設定ができるためリスクの高低で対応できている。更に、ライブ映像で確認ができるので無駄な訪室が無くなり、職員・入居者ともに負担の軽減を図ることができています。
- ・居室内での転倒事故では、事故前後の動画が残り原因の確認から確実な対策が可能となった。
- ・職員個々がスマートフォンを持つことにより、直接電話で連絡を取り合うことで迅速な共有情報の配信ができるようになった。
- ・ローテーション勤務での引継ぎでは、ケア通知のチャット機能を活用し情報の伝達から集約まで行うことが可能となり確実に行うことが可能となった。
- ・夜間、入居者の睡眠状況や不眠時の危険行動などに気づきやすくなり対応がしやすくなった。また居室内への訪室回数を減らせて、睡眠時間の妨げになることが軽減できるようになった。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
137人	137人
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
変更なし	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
2カ月に1回のペースでユニットリーダー向けにケアサポートシステムの活用状況をコニカサポートセンターがデータ解析してフィードバックを受けた。得られた情報をもとに今後の改善点やより有効に活用できる方法を検討した。 新規採用職員、異動職員などこのシステムを新たに使用する職員には、4月にサポートセンターの職員より直接説明を受けた。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
ケア通知のメッセージ掲示板を使用して、職員間の引き継ぎを行っている。 出勤時に前日の詳細や特記事項が分かるため助かっている。また、今日起きたこと等を掲示板に載せることで施設全体の状況が把握できるため情報の共有が今までよりも確実になった。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
入居者の個別設定が可能になったことで事故件数は減っている。このシステムに慣れすぎるとセンサーが鳴るのを待つ受け身のケアになってしまう側面がある。個人の生活パターン居室内での行動パターンを可視化した情報をもとに分析して危険予測の範囲を広げてより有効な設定をしていく必要がある。Live映像を確認後、怪我をした事例もあり、映像から得た状況から本人のもとに歩み寄り声掛けをするよう対策している。ショートステイ30床は依然として全通知設定で対応しているので通知の無駄が多い。ショートステイに関しては、検討の余地があり今後の課題となっている。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人 フジタ)
 事業所名 (介護老人保健施設フジタ)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援システム	a a m s (株式会社バイオシルバー社製)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月16日	10セット	令和3年12月16日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>1年が過ぎ感圧センサー使用は5台のみの使用となっている。モニタリングについては心拍低下機能は誤差がありすぎてほぼデータとしては活用ができていない。見守り支援の離床機能は既存ナースコールとの連動がうまくいかず(反応が遅い)、業者に調整を依頼してもすぐに誤差が生じてしまい、うまく活用が出来ていないのが現状である。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規入所者様に対しては夜間の睡眠状況を知ることにより、ご本人のパターンが分かるためより良いケアにつなぐことが出来ている。 ・夜間睡眠や体動のデータが見れるため、パット交換やトイレ誘導のタイミングを効率的に出来て、不必要な時間に訪室しなくても良く業務の効率化に繋がっている。 ・職員の精神的負担が軽減され、業務を行えることで職員間での情報共有に役立っている。 			

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

<p>① 従前の介護職員等の人員体制</p>	<p>② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制</p>
<p>介護職員数：50名 常勤換算数：45.9名</p>	<p>介護職員数：50名 常勤換算数：44.0名</p>
<p>③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制</p>	
<p>人員体制については夜間帯の業務効率化は出来ているが、本来の見守りシステム（起上り、離床）としては人員削減効果には至っていない。</p>	
<p>②と③が異なる場合はその理由</p>	
<p>見守りシステムを効率的に使用できず、業者と調整しながら改良を模索しているが効果的な改善には至っていないため。</p>	
<p>見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組</p>	
<p>1年が経過し現在も見守りセンサーに留まり、他職員の研修も進める中、見守りセンサー自体が業者と調整しながら改良を繰り返しているが、効果が思わしくなく人員削減には至っていない。</p>	
<p>利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサーの効果がまだ出しておらず、(使いこなす)職員の移動時間の削減には至っていないのが現状である。ケア業務時間の負担軽減にはもう少し時間を要する。 ・見守りセンサーでのモニタリングにより夜間睡眠状態の把握に繋がっているため、それをもっと活用し、個別ケアにつなげていきたい。 	
<p>これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・感圧センサーの感度が上がれば、転倒・転落の事故防止と削減へ期待が出来る。 ・見守りセンサーをもっと効率的に使用するために取り扱いを熟知し、カメラの導入が出来れば視覚的に状況が見られ職員の移動量、身体的負担軽減が可能となる。 ・上記のような改善・機器の組み合わせにより入所者様への個別ケアサービスの向上に期待できる。 	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人愛知慈恵会)
事業所名 (一宮市萩の里特別養護老人ホーム)
サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	パラマウントベッド社製 エスパシアシリーズ		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月28日	5台	令和4年2月28日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

主に立位不安定でありベッドから転落する危険性のあり、センサーマットを使用されているご利用者に対して、「エスパシアシリーズ」を活用しております。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

「エスパシアシリーズ」の導入活用により、ご利用者の離床タイミングを逃すことなく介助に入ることが出来るようになりました。
また、「エスパシアシリーズ」ではご利用者の状態(起き上がり・端座位・離床等)に合わせてセンサー反応のタイミングを設定できるので、センサーマットでは発生しやすい誤作動も軽減し、特に夜間帯においてはご利用者への不必要な訪室を減らすことが出来ており、ご利用者並びに介護看護職員の心身負担が軽減されました。
なお、この見守り支援ベッドを使用されているご利用者においては、現時点では転落事故等は発生していません。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人来光会)
事業所名 (ケアハウスユーハウスいわと)
サービス種別 (特定施設入居者生活介護施設)

適用を受けた補助率	③ / ④ ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	眠りSCAN (パラマウント製)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月 1日	5台	令和3年 11月 26日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 ・ベッドからの起き上がり時に転倒リスクの高い方、トイレ誘導、動作時等で転倒が増えた方、体調不安定な方等で、検討会議を行い、5名の方に設置。 ・日中、夜間ともに、眠りスキャンを確認 (ipad を持ち歩くこともあり) している。 ・起き上がりや呼吸増加、呼吸低下等にアラート音で設定し、都度訪室し状態観察をしている。			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等) ・歩行の見守りが必要な方が一人で部屋にトイレに行く際、職員に迷惑かけないようにナースコールを押さない方や認知症により危険意識が低下した方に対して、起き上がったタイミングで訪室することが可能なため、転倒を発見するストレスや転倒後の対応の臨時な業務の軽減になっている。 ・転倒予防以外に肺疾患のある方に対して、呼吸数が見えるため、本人の自覚がなくても、訪室して早期に深呼吸の声掛けができ、増悪した状態は防ぐことができている。			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
10 : 1	10 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
導入後もかわらない。	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間トイレの行き帰りの際に転倒が続いた方に設置し、起き上がりのアラート音で訪室することで歩行の見守りが可能となり、設置後その方は、転倒がない。 	
利用者のケアの質の向上や休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・転倒や体調不良等の臨時業務の負担が特に夜間帯は大きいため、昼夜逆転による転倒リスクがある方に対して、日中に様子確認し、なるべく日中に声掛けを多くし、夜間良眠に繋げるようにし、夜間の転倒は軽減した。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・申し送りの際、要観察の利用者の睡眠、呼吸、心拍のデータをみながら状態を報告できると、観察する要点、訪室のタイミングが統一でき、職員の知識力も向上していく。 	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人千寿会)

事業所名 (ザ ストーリー東海)

サービス種別 (地域密着型特別養護老人ホーム)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	介護支援システム「ライブコネクト」		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月24日	29セット	令和4年2月18日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

29 部屋にライブコネクト一式を設置し、モニター、タブレット、スマートフォンを用いてあらゆる箇所で居室の状態をスタッフが把握できるようになっている。うち9 部屋については、居室入居者の方に応じてアラートを発報させる設定を登録している。

<アラート登録内容>

7 部屋：離床検知 18 時 30 分～翌 8 時

2 部屋：離床検知 24 時間

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

<総合満足度>

- ・スタッフの総合的な満足度としては非常に高く評価している
- ・84%が入居者の行動把握に伴う事故の防止や、睡眠や心拍などのバイタルデータの活用を評価している

<業務負担軽減の評価>

・業務負担の軽減としては、約76%のスタッフが負担軽減できると評価しており、訪室の頻度については、実際に頻度を減らしているケースも多々見受けられた

<事故防止の効果>

- ・事故防止の観点として、約65%のスタッフが事故やヒヤリハットが減った、もしくは減ると思うと評価している
- ・具体的には、過去導入したセンサーよりも反応が速く、迅速に対応することができたり、モニター画面の表示内容やアラートによって、入居者の異変やいつもと違う行動に気づくことができている

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜勤勤務帯に各ユニット1名ずつ職員を配置している。	夜勤勤務帯の職員配置を2ユニットに1名を見込んでいる。
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
今の所、介護ロボット導入前の各ユニット1名ずつの配置のままになっている。	
②と③が異なる場合はその理由	
<p>夜間、トイレなどで離床されるご利用者様が多く、2ユニット1名の配置では対応が難しい現状である。</p> <p>また、1階、2階で特養が階をまたいでおり、センサーやコールが複数鳴った際の、駆け付け、対応が難しい。</p>	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>見守りセンサーを各居室に設置し、スマートフォン、タブレットが常に見られるような状態にすることにより、以下の取組みを実施している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間巡視（訪室）回数を1時間に1回から3時間に1回に変更 ・夜間巡視時に、入居者の近くに行き入居者の状態を確認していたことにより1時間巡視に時間がかかっていたが、近くに行かず入居者の状態を確認する ・離床検知のアラートを設定し、必要な居室に必要な時に訪室することで不要な訪室を減らし効率的な介助が可能となる 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間巡視時に、入居者の近くに行き入居者の状態を確認していたことにより、入居者の方を起こしてしまうケースがあったが、センサー情報を確認することで近くに行かずに居室入口付近から確認している ・睡眠状態（睡眠の深さ）を確認して眠りの浅い時に夜間オムツの取替えを実施する ・夜間の離床回数を確認することにより、就寝前にトイレにしっかり行くことを促す 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間巡視回数を1時間に1回から3時間に1回に変更することで、夜間業務の10%効率化 ・夜間巡視時に、入居者の近くに行かず入居者の状態を確認することで、巡視の時間が30分に短縮されること ・夜間巡視時に、入居者の近くに行かず入居者の状態を確認することで、入居者の方を起こさず、入居者の方の睡眠の質が向上すること ・睡眠状態（睡眠の深さ）を確認して眠りの浅い時に夜間オムツの取替えることで、スムーズな対応が可能となり、夜間の眠りの質を大きく犠牲にすることがなくなること ・夜間の離床回数を確認することにより、就寝前にトイレにしっかり行くことを促すことで、夜間離床回数（トイレ回数）を減らし睡眠の質を上げること ・離床検知のアラートを設定することで、不要な訪室を減らし効率的な介助が可能となること 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 祖父江愛照会)
 事業所名 (介護老人保健施設 ベストライフ祖父江)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		『ライフリズムナビ+Dr』 (エコナビスタ)	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月 25日	100	令和4年2月25日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>3F 328-1 ベッドがセンサーに反応していなかった。動作確認したところ、正常動作でした。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段動かない方でも、体動、離床アラートを開き、すぐに対応できた。 ・ フットコールの場合だと、利用者様が立っている状態での発見だったが、介護ロボのアラートで対応すると、立ち上がる前での発見することができた。 ・ 室温、湿度が変わるのが良いと思います。 			

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
3 : 1	2.8 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
3 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
アナウンスがある為、見守り必要な利用者様を集中して見守ることが出来る。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
スタッフの行動範囲が広い為、タブレットを東西に置き、アナウンスがあった時、早急に対応できるようにした。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
介護ロボを確認することが多くなり、利用者様の行動を把握できるスタッフも増えてきている。休憩時間については、以前と変わらないように思う。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
スタッフの意識付けが出来てきたため、利用者様の行動変化などの早期発見ができる。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人社団喜峰会)
 事業所名 (ショートステイけやきが丘)
 サービス種別 (短期入所生活介護 (単独型))

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守り支援システム「眠り SCAN」	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月24日	40台	令和3年12月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>全利用者様に対して、眠りSCANを使用し、眠りの状態や体動の有無を確認し、必要に応じて訪室するようにしている。</p> <p>また、利用者様の状態によっては、起き上がったタイミングでアラームが鳴るように設定し、転倒転落の予防として使用している。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>訪室のタイミングをはかることができているため、余分な訪室を減らすことができた。</p> <p>夜間の訪室に関しても、睡眠状態などをみながら訪室することができたため、利用者様も起こすことなく、状態を確認することができている。</p> <p>また、呼吸数などもモニタリングできるため、夜勤スタッフの精神的負担も軽減ができている。</p>			

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1.9 : 1	2.3 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2.3 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>呼吸数などをリアルタイムで確認できるため、巡視に係る時間を削減している。 夜間の状態は、自動的に記録されるため、記録に係る時間を削減できている。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>ご利用者様の睡眠パターンを確認することにより、睡眠を妨げずに状態確認をすることができている。 睡眠のパターンを可視化することにより、受診時に主治医へ現状を報告することができている。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>起き上がった状態などでアラームを鳴るようにし、転倒転落予防としても使用できるようにしていきたい。 夜勤スタッフの精神的・身体的負担を軽減することができると思われる。</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会医療法人 大雄会)
 事業所名 (老人保健施設 アウン)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	aams 介護セット (JC-19) B018-AAMSSKS		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月21日	6台	令和4年2月21	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】 aams6台を各入所フロアに設置(2階3台、3階2台、4階1台)。 <<対象ご利用者>> ・看取り対応利用者 ・体調不良により、頻回な状態観察が必要な利用者 ・睡眠や覚醒状況の把握が必要な利用者 ・離床した事の把握が必要な利用者 導入から現在までに、26名の利用者に適用。 ・夜間の睡眠状態と排泄回数について行動把握。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) ・看取り対象者への夜間帯における訪室回数が、3~4回から0回へ減少。 ・離床センサーを対象利用者の状態に合わせてアラームセットし対応。 ・夜間の排泄介助(オムツ交換)に対して介助拒否する利用者に対し、覚醒時間を把握する事で睡眠を妨げることが少なくなり、スムーズに介助出来るようになった。 ・夜間の睡眠状態と、排泄の間隔をデータ化することで、日中の活動参加のすすめと、排泄支援に活用した。 ・呼吸状態を把握する事が出来、異常の早期発見や、対象利用者にとって適切なタイミングにて喀痰吸引等を実施する事が出来た。 ・訪室回数が減り常時生体状況が把握できた事で、職員の精神的身体的負担が軽減した。 ・看取りケアを施設全体で行うことの定着。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1:1	0.75:1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
1:1	
②と③が異なる場合はその理由	
施設事業運営方針の変更により在宅強化型から超強化型へ転向した。業務内容の多様化により人員体制の変更なし。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・対象者選定。 <ul style="list-style-type: none"> 対象者別の取り組み <ul style="list-style-type: none"> 看取り対応の方（生体情報を把握） 体調不良の方（生体情報を把握） 睡眠・覚醒状況を把握する方（覚醒状況を把握して覚醒時に排泄介助） 離床を把握したい方（転落予防） ・フロア内にて伝達講習を実施。 ・導入6台のうち、順次26名に使用。（現在は、看取りケア3名に使用中。） 現状の3名については、生体情報収集・確認、離床センサーとして使用している。 この情報は、他階とも情報共有。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・生体情報を把握することで、他利用者への早期対応が可能になった。 ・訪室回数の軽減により身体的負担が軽減された。 ・状態変化の把握ができることで職員の精神的負担が軽減された。 ・睡眠や覚醒状況を把握して覚醒時に排泄介助し安眠につながった。 ・覚醒状態を把握することでスムーズに介入できた。 ・転落予防にて使用し、転落はなかった。 ・看取りケア、体調不良者への対応により職員の休憩時間が減少する事は無かった。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生体情報および離床センサー作動情報、夜間の睡眠・覚醒状況を職員間で共有することにより、入所フロア全体でのスタッフの相互協力体制の確立が期待できる。 ・夜勤帯の訪室回数の減少により、職員の休憩時間の確保ができる。 ・利用者の生体情報を把握することで、精神的負担軽減になる。 ・夜間の利用者の睡眠状況、排泄回数を把握して日中の活動量と排泄支援について検討できる。 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人慈雲福祉会)

事業所名 (特別養護老人ホームウエルコートみづほ)

サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	次世代予測型見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月23日	10台	令和4年3月23日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>ベッド位置が確認できる壁に設置。 入所者の身体状況に合わせ、起き上がり・端座位・離床・入室・退室などそれぞれ必要なサインを確認できるように設定。専用のタブレットで夜間も含み終日業務を行う。 夜間の巡回を減らし、必要時は端末上で室内の状況を確認。 事故発生時などアクシデントが起きた際は、報告書作成時に録画された状況を確認し、要因分析する。対策が本人目線で行え、能力や動線・行動把握に役立ち、環境整備を行うことに活用していく。 新規入所・行動把握・退院後や転倒リスクある方に使用。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>入所者の行動が端末で確認できる。 無駄な訪室を減らし、タブレットにて状態を確認することができる。 これにより入所者の睡眠の質の向上、夜間介護従事者の巡回回数軽減につながる。 事故発生時の状況を録画データチェック行うことで、リアルな要因分析が可能となりうる。 入所者の目線・動線で行動を把握し、個々に合わせた環境整備や必要に応じて昼間の活動の見直しやリハビリの検討が行いやすいと考える。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
3:1	3:1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2.8:1	
②と③が異なる場合はその理由	
<p>導入して間もないため人員配置に変更はないが、業務についての削減が見込まれる 記録システムとの連動により記録時間の削減 入所者の行動把握が手元の端末でできるため他業務との連携しやすくなり、看護も共有することで連携が強化される</p>	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>記録システムとの連動により記録時間の削減 入所者の行動把握が手元の端末でできるため他業務との連携しやすくなり、看護も共有することで連携が強化される</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>起き上がり、端座位、離床、入退室等見守り支援を行うことにより、不必要な訪室の削減、事故のリスク軽減、事故時の動画でのデータ分析（要因分析）で、よりよい状況に合わせたケアの実現を可能にする。 利用者本来の能力の把握・原因対策・立案を行い、利用者の睡眠状況が改善することで、特に夜間介護従事者の業務負担軽減を目標とする。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>身体状況、認知状況に合わせたサイン対応による転落、転倒事故のリスク軽減。 事故発生時の状況をデータチェックすることで事故要因を把握し、家族への説明時にも活用し安心へとつなげる。 不必要な訪室削減により入所者の睡眠状態を改善。他見守り支援ロボットで睡眠状態をデータ分析し、記録システムと連携することで夜間巡回業務における肉体的・精神的負担を軽減でき、職員の精神的に安心につながる</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人永熊会)

事業所名 (特別養護老人ホームきらめきみよし)

サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率	(3 / 4) ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り	眠り SCAN		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月9日	10	令和4年3月9日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>眠り SCAN10 台を必要な利用者に対し使用をしている。 夜間帯を中心に、利用者の睡眠・呼吸・心拍状態の把握を行い、適したタイミングでケアの介入を行っている。 利用者ごとの記録をスタッフ間で共有している。 状態の不安定な利用者、入所間もない利用者を中心に夜間の睡眠習慣の把握のため使用している。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>夜間の訪室時間の削減につながっている</p> <p>利用者の睡眠状態に合わせてのケアが可能となっている</p> <p>ステーションにてPCやモバイル端末により、リアルタイムに状態把握ができるため、スタッフの精神的負担軽減につながっている。</p> <p>利用者の夜間の排泄のタイミングや、離床しているタイミングが記録として残るため、予測が立てやすく、タイムリーなケアができている。</p>			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1 2名	1 2名（夜勤者人数変わらない為）
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
1 2名	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避けるようにしている。 ・通知機能を活用し、タイムリー且つ必要な際にのみ職員が対応に動くことができるため、従来の「定時巡視（現状2時間に1回）」から「適宜巡視」に変えていき、効率化を推進している。 ・余剰の時間に従来他勤務時間帯に行っていた業務を遂行し、人員体制の効率化を図っている 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・不要な訪室を避け、覚醒したタイミングに合わせて排泄ケアや訪室を行う。 ・スタッフルームや休憩室にいる間も、PC、モバイル端末にて、リアルタイムの各入居者様の情報を確認する。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様を無駄に起こすことがなくなるため、入居者様の睡眠時間を確保できるようになる。 ・入居者様の睡眠時間確保できるようになれば、入居者様からのコールの回数や呼出しが減るため、スタッフの休憩時間確保につながる。 ・巡視方法の変更により、巡視にかかる時間が大幅に減るため、今までできなかった他業務に時間を回すことができる。 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 尾張健友福祉会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム・ちあき)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	見守りセンサー「眠りSCAN」 (パラマウントベッド株式会社)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年1月11日	2台	令和4年1月11日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内無線通信設備のもとで、「見守りセンサー」を介護記録システム(モバイル端末及びノートパソコン)と接続し、入所者の異変を感知し、職員が迅速に把握できるように運用している。 ・入所者において、身体状態が悪くベッドからの立ち上がりの際に転倒の恐れが大きい方や、不穏状態が多い方など、職員が特に重点的に見守りを行なう必要がある方について、居室ベッドのマットレス下に「見守りセンサー」を設置している。 ・入所者のベッド上の状態(体動・呼吸・心拍)を見守りセンサーで観察し、離床の動きがあればセンサーが感知し、モバイル端末(スマートフォン)及びノートパソコンに通知し、職員が速やかに居室訪問し対応している。 ・居室での夜間就寝中での覚醒・睡眠リズムを、介護記録システムにおいて時系列で記録し、介護職員・看護職員により閲覧し、日中を含めた生活リズムの把握やケアの成果・対策を検討する材料としている。 			
<p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護時間の短縮・・・ 短縮できている。昼間は主にモバイル端末、夜間は主にノートパソコンで状態確認しながら全体として訪室回数を減らせている。 2) 直接の軽減効果・・・ 入所者の転倒転落の恐れがある動作が感知されることで、入所者の外傷を防ぐ対応ができ、ケガ発生時の処置に要する労力・時間を省くことに繋がっている。 3) 間接の軽減効果・・・ 看取り対象の入所者の呼吸状態変化が自動的に記録され、パソコン入力省力できる。 4) 介護職員の満足度等・・・ フロアの夜勤者1名の態勢下で、センサーで常時モニタリングされていることで安心感が得られる。精神的、肉体的な負担軽減につながっている。 5) 利用者の満足度等・・・ 睡眠時の覚醒パターンを把握し、トイレ誘導介助が適切に行える。職員が駆け付けやすく、入所者の転倒によるケガを防げる。 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
介護職員配置必要数(入所者対比)1.95:1	介護職員配置必要数(入所者対比)1.90:1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
介護職員配置必要数(入所者対比)1.95:1 (①と同じ)	
②と③が異なる場合はその理由	
令和5年4月時点で特養では、新型コロナ感染拡大防止の対策を継続している。入所者はマスクできない人が多く、職員自身が対策を緩和ができない。入所者の体調変化への丁寧な見守りが必要。認知症を持つ方、重度の要介護の入所者に対して転倒事故防止が重要であり、現場の介護人員を減らせない。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
・見守りセンサーにより朝の覚醒状況が把握しやすくなり、端末表示をチェックしながら、適時に声掛けができる。朝の業務が効率化できている。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
・不眠の訴えや、睡眠導入剤の使用が続いていた入所者に対し、センサーの睡眠データをもとに生活リズムを考慮したケアに努めた。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠データにもとづきケアを行った入所者がよく眠れるようになり、医師・看護師と話し合い薬剤使用量を減らすことができた。 ・見守りセンサーで集められる呼吸・心拍・覚醒のデータと、排泄記録などを含めた生活リズム全体をよく把握し、一人一人に合った個別ケアを向上させていきたい。 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人寿宝会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム一晃)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率		3 / 4	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守り支援システム「眠りSCAN」 (パラマウントベッド株式会社製)	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月29日	30台	令和3年11月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日中傾眠傾向の方、夜間浅眠の方 ・新規入所の方で生活リズムの把握をしたい方 ・自らの訴えが難しい方 (ナースコール等の使用が困難な方) ・看取り期の方 <p>睡眠状態の確認をし、巡視や夜間排泄のタイミングを検討している。 睡眠状況から起床、就寝時間の見直し、日中のアプローチを行う。 状態の悪い方、看取りの方については呼吸や心拍の確認を行い、状態の把握に努めている。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間の巡視、排泄のタイミングを覚醒時に行うことで、不必要に起こしてしまうことが減り、結果的に介護量を減らすことができる。 ・就寝、起床のタイミングを知り、その方のリズムに合わせることで、必要以上に就寝や起床を促すことがなくなっている。 ・看取り期の方の状態確認ができ、職員の不安感の減少が図れている。 ご家族への連絡や状況を説明しやすくなっている。 ・カンファレンスや事故対策を多角的に考えられる。 ・ベッドから離れていることがわかり、事故の早期発見につながる。 ・ご自分で夜間トイレに行かれる方の排泄のタイミングが把握でき、必要に応じてピンポイントで見守りが可能になる。 			

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2、5：1 (利用者：介護職員)	2、6：1 (利用者：介護職員)
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2、6：1 (利用者：介護職員)	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・眠りSCANの通知機能を活用し、職員が使用しているタブレットに情報が入ることで、必要な時に迅速な対応ができる。 ・眠りSCANのモニターを見ながらタブレットにて介護記録等の入力を行うことで、記録業務の低減、安全な見守りができる。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・2週間分の睡眠状況のレポートを解析し、入居者様の生活リズムの把握を行うことで、利用者様にとって無理のない適切なタイミングでの介助を行う。 睡眠状況を把握することで、夜間の効率的な巡視を行えるようにする。 ・睡眠だけでなく呼吸状態や心拍の状態を把握し、利用者様の体調不良に早く気づき対応する。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様にとって適切なタイミングでの対応ができることで、満足感が得られる。 またそれにともない、利用者様の介護に対する協力が得やすく、介護に対する拒否が少なくなることで、介護にかかる時間も短縮でき、職員の精神的なストレスが軽減できる。 ・事故の減少により利用者様、ご家族、職員の精神的、身体的な負担軽減できる。 ・夜間の効率化に伴い、夜間帯のゆとりが少しでも確保できると、夜間帯の時間のゆとりは精神的なゆとりにつながり、ミスやストレスの軽減につながる。 ・利用者様（特に症状が訴えられない方等）の体調の変化が呼吸状態や心拍の状況から確認しやすく、早期の対応が図れることで、重症化が予防できる。 ・新型コロナウイルス感染等の感染症が発生した際に、効率的な居室への訪問等ができ、職員の感染リスクを軽減できる。 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人さくら福祉事業会)

事業所名 (特別養護老人ホームさくらレジデンス)

サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りシステム	見守り支援システム「眠りSCAN」		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月23日	24	令和3年10月25日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

認知症を含む疾患により転倒及び転倒リスクの高い方

- ・ 終末期により、常時観察が必要となった方
- ・ 新規入所等で睡眠リズムが把握できない方などを中心に運用を開始

入所者のケアプラン立案の参考の一つとして、眠りSCANから得られた睡眠データを活用している

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

利用者の睡眠リズムを把握することで、入眠への促し方、睡眠が浅い方には日中の活動強度を高める支援を検討するようになった

終末期の方など常時監視が必要な方でも呼吸や心拍数をリアルタイムに確認することができるため、職員に安心感を与えることができた。

ベッド上での覚醒時でもアラートを設定できるため、転倒や転落リスクが高い方には非常に効果が高く、リスクマネジメントに有効であった

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
見守り巡回を行う職員 4名	見守り巡回を行う職員 1名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
見守り巡回を行う職員 3名	
②と③が異なる場合はその理由	
ICT 機器を完全に信用して巡回職員を減らすことが難しかった	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
1 時間に 1 回行っていた巡視を、2～3 時間に 1 回に減らすことができた。(モニターでの安否確認は 1 時間に 1 回)	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
特に夜間では、介護ロボットで睡眠状況を確認できるため無駄に利用者が起こされることがなくなりました。夜間帯で、休憩中でもステーション内のモニターで利用者の安否が確認できるため、職員の負担は軽減された。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
全ベッドに標準装備できると、さらに利用者全員の安否確認がこまめにでき夜間帯でのバイタルの変化や利用者の異常に早く気が付くことができる。 また、巡視をゼロにできるようにしていきたい	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人鉄友会)
 事業所名 (介護老人保健施設さくらの里)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
介護施設見守り	エスパシア (パラマウントベッド(株)製)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月23日	2	令和3年10月25日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>認知症の有無にかかわらず、転倒リスクの高い方を主に使用している。 利用者の動作傾向やスピードにより、個々に設定を変え利用者が転倒する前に職員が対応できるようにしている</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) 利用者ごとに設定を変えることで、利用者の行動を制限せず対応することができるため ベッドからの転倒や転落が起りにくくなっている 利用者の離床状況がインカムで早く知ることができるため、ベッドからの転落のアクシデントが 以前より減っている</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
見守り巡回を行う職員 4名	見守り巡回を行う職員 1名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
見守り巡回を行う職員 3名	
②と③が異なる場合はその理由	
ICT 機器を完全に信用して巡回職員を減らすことが難しかった	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
職員配置が薄いフロア及び認知症専門棟を重点的に、介護ロボットを導入した。 インカムを活用し、職員同士の連携がスムーズにとれるようになったため離床アラートがインカムに入電した際も職員同士で連絡を取り合い効率的な動きができるようにした	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
離床前に、アラートが鳴りインカムでの連携を図りいち早く利用者のもとへ駆けつけることでベッドからの転落が減った。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
ベッドからの転落のゼロを目指す。 介護ロボットのベッドに変更したことで、足元に設置していたセンサーを減らすことができ、他に必要な利用者にセンサーを使用できるようになった。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人鉄友会)
 事業所名 (介護老人保健施設さくらの里)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りシステム	見守り支援システム「眠り SCAN」		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月23日	30	令和3年10月25日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

認知症を含む疾患により転倒及び転倒リスクの高い方

- ・ 終末期により、常時観察が必要となった方
- ・ 新規入所等で睡眠リズムが把握できない方などを中心に運用を開始

入所者のケアプラン立案の参考の一つとして、眠り SCAN から得られた睡眠データを活用している

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

利用者の睡眠リズムを把握することで、入眠への促し方、睡眠が浅い方には日中の活動強度を高める支援を検討するようになった

終末期の方など常時監視が必要な方でも呼吸や心拍数をリアルタイムに確認することができるため、職員に安心感を与えることができた。

ベッド上での覚醒時でもアラートを設定できるため、転倒や転落リスクが高い方には非常に効果が高く、リスクマネジメントに有効であった

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
見守り巡回を行う職員 4名	見守り巡回を行う職員 1名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
見守り巡回を行う職員 3名	
②と③が異なる場合はその理由	
ICT 機器を完全に信用して巡回職員を減らすことが難しかった	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
職員配置が薄いフロア及び認知症専門棟を重点的に、介護ロボットを導入した。 職員配置が薄いフロアの利用者の状況を遠隔で別フロアにて監視することができるため、職員が不在の場合でも、利用者の安否確認ができるようになった	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
特に夜間では、介護ロボットで睡眠状況を確認できるため無駄に利用者が起こされることがなくなりました。夜間帯で、ペアの職員が休憩中でもステーション内のモニターで利用者の安否を確認できるため、職員の負担は軽減され、また巡視の回数は変わらないが利用者の状況を確認するタイミングは増えました。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
全ベッドに標準装備できると、さらに利用者全員の安否確認がこまめにでき夜間帯でのバイタルの変化や利用者の異常に早く気が付くことができる。	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 愛知県厚生事業団)
事業所名 (愛厚ホーム西尾苑)
サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	テルサコール (株式会社モルテン)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月5日	1	令和3年11月5日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 ・ベッドからの転落を防ぐためテルサコールを使用。 ・テルサコール作動時は速やかに訪室できる。			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) ・夜間、介護職員が1人の時、入居者がベッドから起きようとする時テルサコールが作動し、速やかに訪室し対応することができる。			

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人社団同仁会)
事業所名 (ショートステイファミリエ)
サービス種別 (短期入所生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	aams (アアムス)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月11日	10台	令和4年3月11日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 継続使用中 利用者様に合わせて臥床時のみ、又は終日使用している			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) 就寝中の反応で排泄状況や転倒予防につながっている バイタルの変動も反応がある為、早期対応が可能となっている。			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人春岡会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム丹陽)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	見守り支援システム「眠り SCAN」 パラマウントベッド(株)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月21日	40台	令和3年12月16日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「睡眠調査」「安全調査」「看取り対応」の3つの調査をすることを使用の原則とし運用基準を継続。 1利用者につき、1か月間「眠りスキャン」を設置し、データ収集であったが、データ収集の期間が短いとの意見あり、3か月間へ変更しデータ収集を実施。 転倒のリスクが高い利用者には、アラームを設定しているが、アラーム設定をする利用者が多く、対応が大変になっているため、再度、高リスク者の選定を検討中 看取り期のアラームを設定については、問題なく対応ができています。 			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度と同様に、利用者様の睡眠状況がデータとして見える化されたため、より具体的な対策が打てている。 前年度と同様に、利用者様の睡眠状況に合わせたオムツ交換をすることができている。 看取り対応時に、死期の予測がある程度できるようになったため、ご家族への早期連絡や、職員の不安が解消され、落ち着いて対応できるようになった。 			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1. 9 : 1	2. 1 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2. 1 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none">・各ユニット5台ずつ設置の継続・巡視時間の短縮 部屋に訪れることなく、眠りスキンの画面確認にて巡視完了としたことでの効率化を継続・眠りスキンのデータ分析により、利用者様の睡眠傾向を把握し、眠剤の調整やパット交換時期の調整で、利用者様の生活スタイルに合わせることで、巡視や排泄交換の効率が上がり、時間の短縮となった。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none">・睡眠の状況を分析し・調整しによる利用者様に合った睡眠時間を確保の継続・利用者様のニーズに合わせた眠りスキンの設置し、安眠対応の継続・夜勤の休憩時間の確保の継続	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none">・転倒のリスクが高い利用者には、アラームを設定しているが、アラーム設定をする利用者が多く、対応が大変になっているため、再度、高リスク者の選定を検討し、眠りスキンの設置の適切な優先度を決めていく。・眠りスキンによる、データの見える化を発端に、分析する意識が職員についた。・根拠のある介護に向けて、改善が期待できる。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 成仁会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム メドック東浦)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援システム	眠りSCAN (パラマウントベッド社)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年4月1日	110台	令和4年3月23日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

眠りSCANについては、特別養護老人ホームでの使用を行っている。(110床+10床)

- ①安眠の確認(昼夜逆転防止)
- ②覚醒、起き上がり、離床時のアラート設定を行い、ご利用者様に合わせて活用
- ③不適切なケア(ネグレクト)の防止
- ④体調が変化した際の早期発見

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

①利用者様の安眠効果

巡視やおむつ交換の時間を、入眠されているご利用者様に合わせて変えることができる。
 ご利用者様の安眠に繋がり、昼夜逆転を防ぐことで、日中の活動量増加、QOL向上、結果として顧客満足度向上にも繋がっていく
 眠前薬を飲み始めたご利用者様の夜間帯の入眠の程度、どれぐらい覚醒していたか、などを瞬時に確認することができ、内服効果、内服調整、業務の効率化に繋がっている。

②事故を未然に防いでいる

夜間帯に動かれてしまうご利用者様がみえるが、『覚醒』『起き上がり』『離床』のアラート設定を行ってセンサーが反応することで、転倒・転落を未然に防ぐことができている。
 これまででは防ぐことができなかった事故を未然に防いでいくことで、事故報告書提出などの書類作成時間が減少している。結果として職員の負担軽減に繋がっている。
 ご利用者様の排泄タイミングでトイレ誘導を行う事ができている。

③不適切ケアの防止

眠りスキャンのような機械があると、悪用をする職員も考えられる。(ネグレクト等)
 ただ、ご利用者様の安眠グラフを確認することで、おむつ交換(排泄サポート)に入っていない職員を確認することもでき、ネグレクト防止に繋がっている。

④体調が変化した際の早期発見

呼吸状態、脈拍数なども測定されており、呼吸が早い等いつもと違う様子がみられた場合、早期に発見することに繋がっている。

現段階では、「眠りスキャンによって早期の受診・治療が行えた」までには至っていない。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2ユニット（20床）で常勤7名	2ユニット（20床）で常勤9名以上
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
介護職員等の人員体制は変わらず→2ユニット（20床）で常勤7名程度	
②と③が異なる場合はその理由	
<p>眠りスキャンを上手く活用し、おむつ交換の頻度を減らして</p> <p>①ご利用者様の安眠（昼夜逆転を防ぐ）</p> <p>②職員の負担軽減</p> <p>へ繋げていきたいが、おむつ交換頻度を減らす取り組みを行えていない現状にある。</p> <p>眠りスキャンを有効に活用し、大幅な業務効率化を図る必要がある。</p>	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・アラート設定を行い、事故を未然に防ぐことで、職員の書類作成時間を省く事に繋がった。 ・おむつ交換頻度の見直しを行い、おむつの購入調整を行っている ・介護システムについては、現在新たな介護システムへ変更予定。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>前述したように</p> <p>■実際に取り組んだ事</p> <p>①夜間の入眠の程度を確認した事</p> <p>眠前薬を飲み始めたご利用者様の夜間帯の入眠の程度、巡視時以外でどれぐらい覚醒していたか等を確認し、内服効果、調整が必要かなどの判断基準となった事。</p> <p>②未然に事故を防ぐためのアラート設定</p> <p>『覚醒』『起き上がり』『離床』のアラート設定を行ってセンサーが反応することで、転倒・転落を未然に防ぐことができている。</p> <p>事故を未然に防いでいくことで、事故報告書提出などの書類作成時間が減少している。</p>	

③不適切ケアの防止

おむつ交換の頻度を減らす所までに至っていないが、眠りスキャンを活用して不適切ケアの発見に繋がった。

■現在取り組んでいる事

①おむつ、パッドサイズの見直しを図っている

②既存の介護システムから、新たな介護システムへ移行し、記録入力の簡素化等、職員の負担軽減を図っている

これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること

夜間 21:30～5:30 頃でおむつ交換を最低でも 2 回行っているが、今後パッドサイズの調整、購入を検討し、ご利用者様の安眠に合わせたおむつの交換を行っていく。

場合によっては、おむつ交換を夜間帯 1 回のみとし、安眠効果や昼夜逆転防止、職員負担軽減につなげていく。

昼夜逆転や安眠がもたらす効果として、今後、日中の活動に参加いただき、ご利用者様に少しでも刺激となる毎日を過ごして頂き、QOL 向上を目指していきたい。

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 百陽会)
事業所名 (特別養護老人ホーム アルクオーレ岡崎大平)
サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りシステム	DreamCare リスクマネジメント&介護支援システム (見守りシステム)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月28日	20	令和3年12月30日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 現在2ユニット(20床)で継続して稼働中。タブレットで、各居室内の入居者活動状況(活動量、呼吸、脈拍)を確認している。 スクリーンショットもできるので、状況がよりリアルに確認できている。			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) 訪室しなくても入居者の状態を確認できる為、体力面、精神面の負担が軽減できている。 夜間も部屋に行かなくても状態が確認できる為、入居者の安眠にも繋がっている。 24時間画像記録されているので、居室内で発生した転倒、転落等の状況確認が画像により確認できる為、リスクマネジメントに活用できる。 動画確認のマニュアルも作成し、入居者のプライバシー保護にも配慮している。			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導
-----------------	------------------------

	入後に見込む介護職員等の人員体制
入居者、職員対比 2.3対1	入居者、職員対比 2.5対1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
介護ロボットを導入することにより、業務改善を行い、効率化を図り、労働時間を圧縮を目指す。	
入居者、職員対比 2.5対1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
見守りセンサーを導入することによって、巡回の回数を減らし、その分の労働時間（約40分）を他のケアに提供することを継続している。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
居室内での活動や状況を把握することで、リスクマネジメントに繋げる。具体的には、歩行能力を把握し、居室内のトイレまでの動線を確認し、自身で安全にトイレまで行けるように環境整備を行った。	
転倒後の状況確認を行う事で、事故後の対応及び対策を図ることができる。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
活動数値を個人に合わせて、一人一人の活動を把握することにより、アラート機能を活用し、事故予防に繋げる。	
より具体的な状況を伝える事ができるので、家族への説明責任を果たすことができる。	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人東加茂福祉会)
 事業所名 (石野の里ショートステイセンター)
 サービス種別 (短期入所生活介護)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		テルサコール	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月2日	10台	令和3年11月2日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較的身の回りのことは行えている転倒リスクの高い方や軽介助の必要なショートステイ利用者様へ導入中。 			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知機能の低下によりナースコールが押せない利用者様も多く、転倒リスクのある方の動き出しを訪室しなくても把握できることにより、必要なタイミングをみて介護介入が行えるため、利用者様のプライバシーへの配慮が行えつつ、介護事故予防にとっても役立っている。 ・夜間気にかけて、頻回に訪室しなくても巡視とナースコール時の対応で済むので職員の精神的負担軽減に役立っている。 			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (ミソノピア株式会社)

事業所名 (ミソノピア)

サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りロボット	眠り SCAN パラマウントベッド		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月 31日	5	令和4年3月4 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】			
<ul style="list-style-type: none">・ 認知症の方で、夜間転倒のリスクの高い方・ 新規ご入居の方 (しばらくの間、睡眠状態・生活リズムの把握など)・ 入院され、身体状態が大きく変化した方の退院時、生活リズムの把握など 主に上記の方を対象に使用し分析しております。			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
<ul style="list-style-type: none">・ 夜間帯の少人数スタッフでの対応時、モニター確認により定期巡回に加え、ご状態の把握が見える化でき、リズムの安定しないご入居者まへも精神的にも安心して業務に当たれている・ 新規ご入居の方のご不安やバイタル確認、睡眠傾向がデーターで分かり、みんなで共有できる・ ご状態が急に変わった方、特にベッド上でのご生活の方の1日の過ごし方をデーターから話し合い、新たなケアに即、繋げられる。			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2. 5 : 1	2. 2 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
令和4年 2. 28 : 1	
令和5年 2. 29 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見込みで数値を出しましたが、眠りSCANの導入効果もあるのか、そこまで手厚い人数の採用を行わなくても介護業務が遂行できている	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ol style="list-style-type: none">1. 見守りセンサー導入により、夜間帯のご様子確認をモニターより介護スタッフが細やかに把握できることで、当直看護師への状態確認の連絡回数が減らせた2. 定時巡回以外のご様子が見えるので、お看取りの方、ご心配な方へ取り付けることで職員の巡回効率が改善した	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ol style="list-style-type: none">1. 夜間の休憩時間確保に大きくつながる⇒急な巡回が減る2. 昼夜逆転されてしまった方の、日中のケア改善につなげられた	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
1. 今は介護専用型個室に使用しているが、今後は自立フロアーにお住いの介護の必要な方への導入も検討出来る	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人緑生福祉会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム南生苑)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	眠り scan、眠り scanEYE		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年 3月25日	20台	令和4年3月25日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

全 20 台を

- ・ 認知症等により転倒及び転落のリスクの高い方
- ・ 夜間不眠、日中傾眠のみられる方で睡眠リズムの把握の必要な方
- ・ 看取り介護等で常時観察を必要としている方

に対して使用している。

特に転倒リスクの高い方5名に対して、眠り scanEYE (カメラ) を設置している。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・ 常時見守りの方の状態や状況が分かりやすくなったため、事故防止につながった。
また、見守りカメラを使用することで状況がより把握しやすくなり、夜勤帯を中心に職員の負担軽減に役立っている。
- ・ 夜間帯の睡眠リズムのデータをもとに個別ケアの実践報告がなされ、科学的に介護する姿勢につながり専門職としての意識向上につながった。
- ・ 今年4月に実施したアンケート調査(5段階)では、全職員が導入して良かったと回答している。特に夜勤帯の負担軽減(100%)、個別ケアの質の向上(83%)、睡眠リズムの把握(83%)に効果があった。一方、日勤帯の負担軽減・休憩時間の確保・人員削減の効果にはつながっていないとの回答が多かった。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2.2:1 (夜勤職員 5名体制)	2.3:1 (夜勤職員 5名体制) (※効率化分は主にケアの向上へつなげる)
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2.4:1 (夜勤職員 5名体制)	
②と③が異なる場合はその理由	
介護職員の退職後の補充がうまくいかず人手不足の状態であったため	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none">・睡眠データ、バイタルデータ等の見守り機能アプリの見方を職員間で学習し、実践発表を通して分析方法やケアの質の向上へのつなげ方を職員間で共有している。・カメラ機能を活用し、夜勤帯等の職員が少ない場合の職員の動き方について意見交換している。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none">・利用者のより正確な状況把握のため、睡眠データ、バイタルデータ等を活用している。・夜間の職員の負担軽減のため、転倒リスクの高い方について、訪室せずに見守りカメラにて確認している。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none">・職員の意識化が進んできたことで、更に収集データに基づく個別ケア計画が作成できる。・転倒等の事故の防止や軽減につなげる。・職員の安心感や業務の効率化、精神的負担の軽減により離職者を減らすことにつながる。	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社ミズノ)

事業所名 (ひだまりの郷たけとよ)

サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り		パラマウントベッド株式会社 眠りスキャン	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月7日	5台	令和3年12月7日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 ・毎日5台稼働中。 ・特定の入所者だけではなく全体的に実施した。			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) ・睡眠導入剤の効果を数値的な把握ができ医療機関に作用が適量化に繋がっている			

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
① 日勤帯 個室を回るスタッフ2名。 ② 遅番 ~21時。早番 7時~	① 日勤帯 個室を回るスタッフ2名。 遅番,早番の時間短縮。20時~7時30分まで1名対応。
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
② 日勤帯 個室を回るスタッフ2名。 ③ 遅番 ~21時。早番 7時~	
③ と③が異なる場合はその理由	
・センサーのタイムラグやコールが頻回に鳴るなどあり、実際に職員で動くことでシュミレーションやコールの制御など行っただが業務に反映するまでには至らなかった。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
・パラマウントベッドの担当者様をお呼びしての勉強会の実施。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
・看取り期においてはある程度の効果があるケースがあった。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
・当施設は西館定員15名と東館15名と分かれており、片方の館15名分追加することで効果がみられるか検討している。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社マザーズ)
 事業所名 (グループホーム円頓寺本館)
 サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けた補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		眠りスキャン	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年1月28日	18台	令和4年1月28日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】			
利用者様の各居室(18室)に眠りスキャンを設置し、居室の見守りとして活用中。			
【介護ロボットの導入効果】			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
夜勤者の訪室回数の軽減、覚醒時の素早いトイレ介助など負担軽減となったと介護者から好評です。			
睡眠の質や心拍数などをデータで把握でき、データ提示により医師との連携が密になり、医師からも処方にも有効との評価をいただいている。			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
平均月間労働時間 2200 時間	平均月間労働時間 2100 時間
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
平均月間労働時間 2100 時間 職員数に変動はないが、残業の削減と年間休日数が増すことができた	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の I C T 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
見守りセンサーを使用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍数をリアルタイムに確認することにより、不要な訪室を避けることができた。定期巡視から適宜巡視に変更できた。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
スタッフルームや休憩室にいる間も P C ・モバイル端末にてリアルタイムの入居者様の状況確認が取れるため、休憩時間が増えた。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
職員の年間休日の増加が図れたため、定着率の向上につながる。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人青山里会)
 事業所名 (びわじま介護センター)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4			1 / 2
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名			
令和3年12月8日 見守ッ	見守り介護ロボット 「aams」			
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間	
令和3年12月8日	3	令和3年12月8日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで	

【介護ロボットの使用状況】

常時、対象利用者のベッドに設置して、対象利用者の状況を確認できる状態にしている。対象利用者の睡眠と覚醒状況、心拍数、呼吸数等のデータは逐一PCやタブレットに転送され、職員が確認できる状態となっている。対象利用者の状況変化を個別設定することによりPCやタブレットにアラート音を鳴動させることができるため、離れた場所でも職員が確認できる状態。

日常的にこれらを活用して、ご利用者の状況把握、アラート音発生時の訪室の要否の判断している。また、事例検討で当該機器のデータを活用し、対象利用者の生活リズムの再構築を図っている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

当該機器導入前は夜間訪室時に、睡眠中の利用者を覚醒させてしまい、介護の負担が増大することがあったが、当該機器作動時に連動するカメラ(※補助金対象外)で対象利用者の様子を確認して訪室の要否を判断することで訪室回数の減少につながった(対象利用者の安眠阻害防止と介護職員の負担軽減)。

また、当該機器のデータと職員が記録した具体的な情報をすり合わせ、考察することで、対象利用者の生活リズムを読み解き、対象利用者にとって適正な生活リズムを図ることができた

(令和4年度の法人研究発表会で発表)。総体的に対象利用者の事故リスク低減にも繋がっている。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 成祥福社会)
 事業所名 (特別養護老人ホームこすも)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り	エスパシアシリーズ(パラマウントベッド株式会社)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月30日	100台	令和4年3月30日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>・特に大きな変化はない。夜間に限らず日中においても効果的である。精神的疾患のある入所者様で立位不安定な方に対して効果があった。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>・転倒リスクの高い方で、自己にてベッド移乗をされる方に使用している。何事もない事がほとんどですが、実際転倒時の発見が早かった。職員が早めに駆け付けることができるため見守りや一部介助ができることで事故を未然に防げている。</p> <p>・認知症の方、精神的疾患のある方の行動が読めないところもある為、事故防止の点で効果的であった。</p> <p>・ナースコールと連動し、コールが鳴った経過(履歴)がわかる為、事故防止や実際に起きた事故により、時間帯の把握ができ対策の材料ができた。</p> <p>・足元にマット等がないため、移乗の際の車椅子使用が楽になった(マットを傷つける心配がない)。</p> <p>・個々のレベルにあったタイミングのコール使用ができるため、転倒防止に役立っている。</p>			

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人なごや福祉施設協会)
 事業所名 (特別養護老人ホームなごやかハウス希望ヶ丘)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		aams 介護セット B018-AAMSKS	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月24日	5セット	令和4年1月17日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>・全身状態の悪い方の心拍の確認を中心に使用している。状況に応じて最大5セット稼働させている。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看取りのご利用者の呼吸停止時に速やかに訪室でき、早期発見に役立った。 ・睡眠状態(眠りが浅くて体動がある、熟睡している)が把握しやすい。 ・呼吸や心拍の状態が悪い時などの効果的な訪室が可能になった。 ・ご利用者についての看護、介護職種間の情報共有の機会が増えた。 ・上記のことから、スタッフとしては導入してよかったという感想が多い。 			

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社豊田ほっとかん)
 事業所名 (有料老人ホーム豊田ほっとかん)
 サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	見守り介護ロボット aams/アアムス		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月17日	3	令和3年12月16日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

日中では介護フロアにあるベッドに設置し使用している。
 身体状況が不安定な利用者に対し活用し、睡眠時の心拍、呼吸、睡眠の質等をパソコン及びタブレット端末にて見守り、異常があれば駆けつけ対応を行う。

夜間では(18時~翌7時)の時間帯で使用している。

認知症にてトイレの場所がわからない入居者や、歩行不安定のため転倒リスクが高い入居者のベッドに設置し、パソコン及びタブレット端末で睡眠の状況を確認する。ナースコールシステムと連動させて、利用者のバイタル反応の異変があった場合や利用者の離床状況を把握している。センサーが発報した場合に部屋を訪問し、確認をする。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

ベッド上での「深い睡眠、浅い睡眠、覚醒、離床」が分かるので、スタッフの少ない夜間でも、利用者の状況に合わせた介護できる。覚醒や浅い睡眠の時に介護することで、入居者の睡眠の妨げにならないようにしている。

職員の精神的負担が軽減され、効率的な業務になっている。ご家族への報告や、職員間での情報共有に役立っている。サービスの改善や体調変化の気づきになっている。

看取りの利用者に対する活用では、心拍数や呼吸数を把握できる機能などを活用し、利用者の状態を把握できる。看取りの利用者の状況を把握することで、職員の精神的な安心感や、夜勤者の心の持ち方に良い影響がある。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
<p>日中；11名 夜間（本館）；2名 ※介護士及び看護師の人員、土日の日中は1名減</p>	<p>日中；10名 夜間（本館）；2名</p>
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
<p>日中；10名 夜間（本館）；2名</p>	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>・見守りセンサーの見守り状況をタブレット端末でも把握できるようにすることで、職員がPCに向かう必要が無く、移動しながらでも見守り状況を確認することが出来るため、より流動的な職員配置が可能となった。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>・身体状況が不安定な方に関しては夜間に限らず日中も見守りセンサーを活用し、呼吸状況や心拍等を把握しつつ業務にあたった。 それにより、利用者へのより適切なケア及び職員の不安感軽減を図ることが出来た。 ・看取りを行う際に活用することで、対象者の呼吸状況、心拍数など、身体状況を密にモニタリングしている。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>これらの取組により、利用者への適切なケア及び緊急時の迅速な対応、職員の身体的、心理的負担の軽減、訪室回数の低減が出来ている。 弊社本館において活用している見守り介護ロボットは、今回導入の3台のみとなっているため、今後導入台数を増やしていくことで更に業務の効率化等が期待できる。</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人勅使会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム第二勅使苑)
 サービス種別 (指定介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り	高齢者見守りシステム 見守りライフ		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月2日	3	令和3年12月14日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・令和元年度に今回購入した同じものを6台導入しており使用していましたが、見守りが必要な方が増加しており、6台では不足しており3台追加で導入する運びとなりました。使用に関しては、必要になっている方をピックアップ、もしくは各入居者の担当が選出する形として、検討会を行い導入しています。現在、前回導入分と今回導入分を合わせた9台すべて使用しています。
- ・使用中の入居者に対し、継続して見守りライフが必要かどうか定期的に話し合い再検討を行うことで適切な活用ができるよう努めています。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・夜間帯の見守りをモニター越しに行うことが出来、転倒リスクが高い方へのアプローチが早くなっている。それに伴い介護側の負担軽減や、夜間帯の見守りに対する安心感につながっています。スタッフの動きの面での負担軽減以外に、心理面での負担の軽減に大きく役立っています。
- ・各入居者に合わせセンサーを切り替えることが出来るため、見守りライフを導入した入居者の転倒やずり落ち事故が減少しています。
- ・導入前に比べ、転倒・転落による事故が減少しており、導入してよかったと感じています。

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人 東恵会)
 事業所名 (介護老人保健施設 星ヶ丘アメニティクラブ)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	(3/4) ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	ベッドコール・コードレス (BC-RN) (テクノスジャパン)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月19日	10台	令和3年11月19日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

購入後、以前より入所しているご利用者と新規入所者の中から、購入した見守り支援機器の対象者をピックアップして使用している。一定期間の使用を行った後、使用継続の検討を行っている。現在は購入した台数の全てが稼働中。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

夜勤時に、見守り重視のご利用者の状況をエリア担当職員以外の職員も把握しやくすくり、精神的な負担が改善していると報告を受けている。(ナースコール本体 各端末で確認が可能)

また、新規入所で不穏な状況のご利用者に対し、一定期間センサーを利用することにより、夜間中に適切なサポートができるようケア計画を経てるうえでも役立っている。

ご利用者の転倒・転落の未然防止という点でも、事前に防げたケースもあった。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜勤時人数体制 全フロア合計8名 (3名 3名 2名)	夜勤時人数体制 全フロア合計8名 (3名 3名 2名) ※見守りの人員配置の効率化はある

③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制

全フロア合計8名 (3名 3名 2名)
※見守りの人員配置の効率化はある

②と③が異なる場合はその理由

見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組

当施設のフロアの構造は東側と西側に分かれており、夜間帯はそれぞれの方面に担当を決めて見守り・巡視を行っている。転倒・転落の危険性が高いご利用者が多数いる時は、担当職員が廊下にて待機し、見守り以外の業務（記録業務など）を行っている場合もあった。現在も、廊下にて待機、見守りは行っているが、以下のような見守り・巡視に関する人員配置の改善を行うと同時に、業務の時間割り当てを見直し、他の業務も効率を図っている。

例 3人体制の夜勤

東側 見守り重視対象 ご利用者 複数名	見守りセンサー	センサーに入浴 センサーで入室 センサーで退室	見守りセンサーによる見守りの効率化
	東側見守り担当職員B ※場合によっては、廊下にて見守り待機する場合もある。	サービスステーション担当職員A (ナースコール本体にて確認可)	東側見守り担当職員B (端末にて確認可)
	西側見守り担当職員C (端末にて確認可)		

利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組

センサーを使用するご利用者を、ステーション近くの居室にする、同じ区域に固めるなど見守り重点区域を明確にし、複数名で注視することとした。

これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること

複数名で注視し見守り重点区域を明確にすることにより、職員の素早いサポートが可能となり、転倒・転落への精神的な負担の軽減に役立っている。(R4年度は感染症のクラスター時に大いに役立った)見守り以外の業務の割り当てを増やし、より一層の業務全体の効率化を図る。

入所者のベッドからの転倒・転落事故を未然に防ぐことによる事故の更なる減少が期待できる。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人 中野会)
 事業所名 (介護老人保健施設 LA・LA・LA)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り		リコーみまもりベットセンサーシステム	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月29日	6	令和3年11月29日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>入所定員100名に対し、常時見守りが必要な転倒・転落等のリスクがある利用者20名程度の中で特にリスクの高い方に対し、日勤、夜間帯両方で2階2台、3階2台、4階2台と各フロアに設置して使用している。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>日勤、夜間帯共に巡回の回数は変更せず行っている。夜間帯は3名の介護スタッフが2時間に1回の巡回を行い、利用者の状況を確認している。導入した利用者と、導入していない利用者と比較すると、導入した利用者は居室での状況、特に夜間帯の動きが把握できるようになった。</p> <p>また、その場で見守りできることで、介護職員の心身の負担に繋がっている。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
-----------------	--

29 人	29 人
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
29 人	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
見守り業務に時間や負担がかかっており、常に周囲を気にしている環境下で、利用者とのコミュニケーションに掛けられる時間が少ない。見守りセンサーを導入後も、人員体制はそのまま継続している。入所定員 100 名にして、6 台の導入では効果薄いのか、時間削減までには繋がっていない。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>① 巡視前に見守り機器のモニター画面を確認することで利用者の状況を確認することで、対応の優先順位づけを行っている。</p> <p>② 見守り機器の導入により、利用者の行動分析と予測をし、生活パターンや傾向を理解することができるために、夜間帯で言うならば、訪室するタイミングを調整し、眠りの妨げにならないように対応している。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
導入している利用者の行動分析や予測は行えている。台数を増やしていけば、介護職員の心身の負担軽減や利用者の転倒転落の件数を減らしていけると期待している。	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書 (その1)

法人名 (医療法人聖俊会)
 事業所名 (豊川老人保健施設ケアリゾートオリーブ)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	テルサコール(株式会社モルテン)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月10日	10	令和3年11月16日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ◎アセスメントで転倒・転落リスクが高いと判断した方を対象に使用している。
- ◎入れ替わりの多いショートステイ用のベッドに設置して利用者の状況に合わせて使用している。
- ◎マットレスとしての性能も高いため、褥瘡予防にも活用している。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ◎従前の見守り機器に比べて故障が少なく修理費用や手間が減っている。
- ◎端坐位になる前で反応するため素早い対応が行えている。
- ◎寝返りなどによる誤作動が少なく、不必要な訪室が減っている。
- ◎利用者ごとにセンサーを設置したり撤去する必要がなくなり、新規の方に対しても試験的に使用することで夜間の行動が確認できるため職員の負担が軽減できている。
- ◎寝心地がよく良眠できているとマットレスとしても評判が良い。

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
定員 100 名に対して 常勤換算で介護職員 36.5 名、看護職員 9.5 名	定員 100 名に対して 常勤換算で介護職員 36.5 名、看護職員 9.5 名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
定員 100 名に対して 常勤換算で介護職員 36.1 名、看護職員 10.4 名	
②と③が異なる場合はその理由	
新規採用、中途退職があったため。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
◎既存のモニター型見守り機器と併用、センサー反応があった際にはモニターを確認して訪室の必要があるか判断している。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
◎従前の離床センサーは床マットタイプで視認できるため、避けてしまったり、嫌悪感を持っている利用者へ優先的に使用している。 ◎起床センサーでは寝返りなどの誤反応が多く、不必要な訪室が職員の負担になっている利用者を使用している。 ◎導入効果、満足度に関して職員に定期的にヒアリングしている。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
◎マットレス内蔵型のため目に見えることがなく、利用者の心理的な負担の軽減が期待される。 ◎従前の起床センサーに比べて寝返りなどによる誤作動が少ないため、職員の不必要な訪室やそれによって利用者の睡眠を妨げてしまうことが少なくなり、職員の負担軽減と利用者の安眠に繋がることを期待される。 ◎定期的にヒアリングを実施することで効率化に必要な機器、適正な台数、使用方法が明確になっていくことが期待される。	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 さわらび会)
事業所名 (特別養護老人ホーム さわらび荘)
サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り機器	眠りスキャン NN-1320 (パラマウント製)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月28日	75台	令和4年2月28日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 ・昼夜使用している。夜間の睡眠状況、心拍、血圧の把握に使用している。 ・入居者様の異常を早期に見つけられるよう入居者様にあつた使用方法設定している。 ・睡眠状況を把握し夜間寝れない方はその対策をケアプランに反映できるよう対象者の様子観察を継続している。			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) ・起き上がりを早期に検知でき転落、転倒防止ができた。 ・夜間の睡眠状況を把握することにより、入居者様の夜間の状況を確認することができた。これを参考にプランへ反映することができた。 ・睡眠状況を把握できるとともにバイタルが確認でき異常の早期発見に繋げることができた。 ・			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
-----------------	--

<p>夜勤勤務において、実人数 3 名の配置を要する。(1 月介護職員の夜勤数は平均 7 回程度)</p> <p>現状 1 : 2.6 の配置状況)</p>	<p>夜勤勤務において常勤換算で 2.4 以上 (1 月介護職員の夜勤数は平均 4 回程度に減少)</p> <p>1 : 2.9 程度の人員配置で可能</p>
<p>③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制</p>	
<p>コロナの影響により①の配置のまま</p>	
<p>②と③が異なる場合はその理由</p>	
<p>コロナ陽性者が利用者、職員に発生し人間的にも利用者の部屋の配置的にも 2.4 人に移行するのに無理が生じたため終息まで見合わせ中。</p>	
<p>見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・携帯での見守りが可能となり、既存のセンサーマットより早く起き上がり等感知することができ、転倒予防に繋がった。 ・見守り、記録の場所の制限がなくなり場所を選ばず業務ができるようになった。 	
<p>利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者本来の能力の把握、要因対策、プランの立案により、睡眠状態の改善対策を講じる事が出来るようになった。 ・利用者の心拍数や呼吸数、睡眠状態を把握できるため夜間介護従事者の精神的身体的負担の軽減ができた。 ・介護記録のデジタル化の統一。 	
<p>これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の適正配置に繋がり、有給休暇等の取得につながることで働きやすい職場環境が整備できる。 ・転倒等の事故発生が防げ、入居者様、ご家族様の安心につながる。 	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人1980)
事業所名 (高齢者グループホーム円)
サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り	リコー みまもりベッドセンサーシステム		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年10月26日	8台	令和3年10月14日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 ・認知症及び高齢に伴う足腰の弱体化により転倒、転落リスクがある高齢者が入居している。入所定員8名に対し常時見守りが必要な入居者が定員8名の内、令和4年度は平均3名であった。認知症の重症化もありベッド離床の際の転倒リスクが特に高く、また、徘徊や妄想からの問題行動のからベッド離床にいち早く気付く必要がある入所者に設置した。			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) ・設置前は転倒リスクのある入居者のベッド離床に気付かず転倒事故が発生していたが、設置後は離床センサーにより離床前に気づくことができ、ベッド離床の際の転倒、転落事故は月平均0件であった。 ・夜勤職員は1名で、モニター監視と定期巡回、常時見守りが必要な入居者は物音など気をめぐらしながら随時追加巡回(10回以上)をしていたが、センサー設置により常時見守りが必要な入居者の追加巡回はほぼセンサー検知時のみ(0~2回程度)にすることができた。追加巡回回数は80%軽減できた。 ・夜間の活動履歴データが取得でき、夜間の入居者の行動実態の把握ができ、ケアプランの作成に活用できた。 ・以上のことから、入居者家族の安心感、満足度は向上した。 ・特に夜勤職員の場合は、巡回の軽減、入居者の行動把握が効率的にできることにより精神的ストレスの軽減、業務の効率化ができ、業務に対する満足度も向上した。			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜間時間帯 1名	夜間時間帯 1名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
夜間時間帯 1名	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
・見守り機器の導入によって導入前は夜間巡回を定期的に加え10回（時間にして計30分～1時間）行っていたものを、定期とセンサー検知時のみ0～2回（時間にして0～20分）に削減できた。 ・削減できた時間は記録業務や活動準備の時間にあてることができ、職員の残業が0時間になった。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
・夜間の活動履歴データが取得できたことで、訪室のタイミングを調整することができ入居者の睡眠を妨げることなく訪室できるようになった。 また、削減できた時間で他の眠れない入居者とのコミュニケーションをとるなど全体の介助の質が向上した。 ・アラーム感知時にモニターチェックする作業を加えることで、介助の優先度（事故リスクを回避）を判断することができた。 ・行動パターンの把握ができたことにより職員は休憩のタイミングを取りやすくなった。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
・夜間職員の心身負担の軽減ができる。それにより業務に対する意欲の向上が見込める。 ・入居者の安眠の促進、介助の質の向上により入居者のQOLの向上が見込める	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 名古屋ライトハウス)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 瀬古第一マザー園)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	(3/4) ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	眠り SCAN/NN-1320、眠り SCAN eye カメラ (パラマウントベッド社製)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月18日	眠り SCAN 44台 眠り SCAN eye セット 10セット	令和4年3月18日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

特養 60 床全てに見守り機器を設置したことで、各フロアのスタッフルームのパソコン上で、入居者の動きや睡眠の程度を管理することができている。特に夜間の職員が少ない時間帯は、見回りだけでは利用者の安全確保が十分にできず、転倒・転落事故が発生しやすい傾向にあったが、見守り機器を導入することにより、利用者の危険な行動が始まった時点で訪室できるようになり、事故を未然に防止できるようになった。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・全床に見守り機器を導入したことで、1時間に1回実施していた夜間の巡視にかかる時間を削減することができ、他の利用者のトイレ誘導などの排泄支援や水分補給に充てることができている。
- ・転倒や転落事故の回数が多い利用者については、眠り SCAN eye (見守りカメラ) をセットで設置したことにより、訪室しなくても利用者の動きを把握することができるようになった。事前に事故を防止できると同時に不必要な訪室業務を省くことができている。
- ・夜間帯は職員数が少なく、常にサービスコールとセンサー対応に追われていたが、見守り機器を導入したことにより、センサー対応に振り回されることなく、適切なタイミングで訪室することができるようになった。職員の肉体的・精神的負担の軽減につながっている。
- ・利用者は夜間、職員の巡視の都度、目を覚ましてしまい、睡眠を妨げられる傾向にあったが、必要最低限の訪室になったことにより、利用者の睡眠の質が向上したように思われる。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2.6 : 1	2.6 : 1

③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制
2.6 : 1
②と③が異なる場合はその理由
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の I C T 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ・全床に見守りセンサーを導入したことにより、巡視にかかる時間を約 3 時間削減でき、職員の負担軽減につながっている。 ・今まで巡視にかかっていた時間を利用して、パソコンやタブレットを用いた動画視聴研修を受講することができるようになり、内部研修に関する残業時間が減少した。 ・夜間の転倒・転落が多い認知症の利用者に対し、眠り SCAN eye を設置することでベッド上の状況を画像で確認できるようになり、センサーが反応した際に訪室する必要があるかどうかを判断できるようになった。事故防止と同時に不必要な訪室業務を省くことができている。 ・事故を未然に防ぐことができるようになり、事故件数の減少とともに事故発生後の事務処理や状態確認の時間が削減され、残業時間が減少した。 ・看とり期の利用者の心拍数数をモニターできるようになったため、看護師のいない夜勤帯の介護職員の精神的負担が軽減されている。
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の睡眠状態や心拍数数をパソコンのモニターで確認できるようになり、覚醒したタイミングで水分補給やトイレ誘導ができるなど、利用者の状態を遠隔で把握しながら適切なタイミングでケアができるようになった。 ・巡視の時間が短縮され、トイレ誘導やオムツ交換などの排泄支援を個別に行うことができるようになり、尿汚染による着替えやシーツ交換の回数が減少した。 ・入眠中の利用者に対して排泄支援を理由に起こすことが減ったため、利用者の睡眠の質が向上している。
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の利用者の睡眠パターンや行動パターンを把握することができるため、排泄ケアを中心とした個別ケアを充実させることができる。 ・職員が少ない夜間帯において、転倒や転落リスクが高い認知症高齢者を対象に見守りカメラを設置することによって転倒事故を未然に防ぐことができ、事故発生後に生じる書類作成や見守りの強化といった職員の負担が軽減され、残業時間の減少が期待できる。 ・利用者の心拍数や呼吸状態を把握することができるため、看とり期の利用者に対して心肺の状態変化を見ながらより細やかな看とりケアを行うことができる。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 清涼会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 東海清涼苑)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り	次世代予測型見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年1月31日	10台	令和4年1月31日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・各ユニットにて見守りセンサーの使用が適している入居者様を抽出。取りまとめ、10台を必要な居室へ設置。
- ・介護責任者においてもサーバーにて把握し、必要に応じてユニットへの対応また指導を行っている。
- ・発報を入居者様ごとの事故を未然防ぐタイミングに合わせる事で、不要な訪室を減らし使用している。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・ユニットケアでは基本的に居室の扉は閉めているので、居室内の様子が把握できることにより不要な訪室が減少しプライバシーと安眠の確保ができています。また、訪室することで不穏になれる入居者様も良眠されるようになった。
- ・ベッドから臥床時に入居者様のADLに合わせた体勢による危険動作のタイミングが分かるため、迅速な介助による安全確保ができ、無駄なく入室できるため入居者様も介護職員も良好な関係につながっている。
- ・現在は使用している入居者様で事故が発生した場合、録画機能を活用して委員会等で事故検証と再発防止の策定を進めており、必要であればご家族様に見て頂く事もできます。
- ・介護職員の見守り業務の負担が軽減し、ナースコールの重複時に優先順位が分かりやすくなり職員の精神面も安定し離職防止に繋がっている。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1.91 : 1	2.1 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2.1 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none">・施設内のどこからでも情報へアクセスできるように通信環境を設定し、把握できる職員の移動距離を減らすことで直接のケアに費やすことのできる時間が増えた。・人員に限りがある為、センサーマットを多用していたが、見守りシステムを導入したことで他の業務を行っていてもスマートフォンにて状況を確認できるため、余分な移動がなく人員における効率化につながった。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none">・夜間、入眠されているかの確認がスマートフォンでできるため、頻繁に個室を訪れる必要がなく、入居者様の安眠を妨げる事がなくなり睡眠の質が向上した。・夜間は夜勤者1名体制で20名の入居者様に対応するため、異なる居室で同時にナースコールが鳴ると優先順位の判断が困難だが、見守りセンサーによりスマートフォンで様子が把握できる為、的確に判断し駆けつける事ができる。それにより、転倒事故を未然に防ぐことで事故も減り、夜勤職員の事故に対する恐怖感・緊張感による精神的負担を軽減できるようになり、入居者様に安全と安心を提供できるようになった。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none">・事故(転倒・転落)発生件数が導入前は約4.4件/月だったが、R4年度は約2.9件/月と減少した。・今までの感圧センサーでの寝返りの際の誤感知による発報の確認の時間や、巡視の際の眠りを妨げてしまう事で起こってしまう入居者様への対応に要した時間を、他のケアに使う事ができることで、職員の精神・身体両面の負担軽減につながり、離職率を下げる事が期待できる。	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会医療法人愛生会)
事業所名 (愛生複合型サービスセンター平安通)
サービス種別 (看護小規模多機能型居宅介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	アメリカ 83幅 分配器 NC-10 2P 標準		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月 日	1	令和3年12月10日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 ・転倒や転落対策のためにコールマットで間に合わない利用者に対し使用。 ・耐圧分散効果もあるため褥瘡発生リスクが高い利用者に対して離床センサー設定 OFF 時も使用。			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) ・離床センサー設定で上手く反応しないこともあった。 ・麻痺があったり褥瘡発生リスクが高い利用者を中心に使用していた。褥瘡発生後も処置を平行することができた。 ・エアマットの代用として活用ができた。			

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (独立行政法人地域医療機能推進機構)
 事業所名 (中京病院附属介護老人保健施設)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守りシステム		エスパシアシリーズ	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月4日	2	令和4年3月4日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>「離床 CATCHⅢ搭載電動ベッド」2台を使用し、ご利用者様の動き(起き上がり/端座位/離床/見守り)を把握することで、夜間帯を中心とした利用者様の転倒・転落事故防止が図れている。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>従来のセンサーマットでは足を置いたタイミングよりもセンサーマット上に座り込んだ状態で発見されることがあり、転倒前にセンサーマットが転倒予防策として有効とは言えない事例が見られた。導入した介護ロボットは立ち上がる前にセンサーが反応し、ナースコールが鳴動する。</p> <p>ご利用者様の動作に合わせたセンサー設定が可能。立ち上がる前にナースコールが鳴動するため、立ち上がるまでの間に職員が居室に向かう時間が確保できる。ベッドに内蔵されたセンサーを活用し、より正確な検知が可能になり、センサー誤報による介護スタッフの駆けつけが減った。</p> <p>介護スタッフの見守り業務の心理的負担の軽減、業務の効率化が図れている。</p>			

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
日勤 看護師 4名 介護員 11名 夜勤 看護師 1名 介護員 3名	日勤 看護師 4名 介護員 11名 夜勤 看護師 1名 介護員 3名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
日勤 看護師 4名 介護員 11名 夜勤 看護師 1名 介護員 3名	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>離床 CATCHⅢ搭載電動ベッド「エスパシアシリーズ」を導入し、転倒・転落事故防止と見守り業務の効率化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センサー設定により、ナースコールにて早期体動の感知が可能 ・転倒・転落事故予防と早期発見 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>離床 CATCHⅢ搭載電動ベッド「エスパシアシリーズ」を導入し、転倒・転落事故防止と見守り業務の効率化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センサー設定により、ナースコールにて早期体動の感知が可能 ・転倒・転落事故予防と早期発見 ・介護職員の身体的・精神的負担の軽減 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>ご利用者の状態に応じたセンサー設定（起き上がり・端座位・離床）により、体動に対してナースコールが鳴動するため、立ち上がる前に訪室や声掛けすることで事故予防に繋がっている。</p> <p>正確な検知が可能になり、センサー誤報による介護スタッフの駆けつけが減った。</p> <p>日勤帯において、コール報知が可能のため常に利用者を見守る必要性が減り、その時間を他ケア等に使っている。</p> <p>夜勤等の限られた人員配置時には、職員の心労負担の軽減に寄与している。</p>	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 明翠会)
事業所名 (特別養護老人ホームなのはな苑むつみ)
サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	「眠りSCAN (NH-1320)」		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月24日	29台	令和3年12月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 ・29床全入居者様を対象に設置している。 ・各ユニット(3ユニット)看護師・ケアマネージャーのパソコンに連動させ、毎日の睡眠状態、呼吸・心拍状態の確認。離床状況の把握をしている。 ・インカムに連動させている。 ・介護記録ソフトに連動させた。			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) 睡眠状態や呼吸・心拍状態を可視化できるデータに残せるようになったことで、 ・日中も含め入居者の個別ケアをさらに推進できるようになった。 ・定期的な夜間巡視の回数を減らし、入居者様の安眠を確保と、スタッフの業務負担軽減につながった。 ・看取り介護の入居者様に対して、スタッフの心的負担が緩和され、家人への適切な情報提供が出来るようになった。 ・一昨年と比較し、ベッドからの転落が激減(12件→2件)した。 ・いろいろな場面(リクルート・入居希望)で当施設の強みとしてアピールできるようになった。			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 観寿々会)
事業所名 (特別養護老人ホーム ヴェルバレー)
サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ (1 / 2)		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	Neos+Care (ネオスケア)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月28日	2台	令和4年2月28日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>ベッドからの起き上がり時に転倒リスクの高い利用者を選定し、利用者同意を得て使用している。導入前は、離床センサーを使用しコールが鳴るたびに訪室していたが、導入後は端末にて確認し安全が確認できれば、訪室しない対応をしている。</p> <p>実際に危険を検知した場合には、利用者のアセスメント材料として活用を行い利用者への安全確保の為に対策を講じている</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>転倒リスクの高い利用者を使用することで、離床センサーでは、可視化できなかったことにより危険性が低い場合(利用者の体動のみ)でも訪室しなければならなかったが、Neos+Careでは可視化できることにより転倒の危険性が低い場合には端末に確認し安全が確認できた場合には訪室しないことにより、介護職員の見守りの負担軽減へとつながっている。また、導入したことにより、訪室する時間が削減され、その時間で介護職員が安心して利用者の介護にあたれるようになった。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人共愛会)
事業所名 (特別養護老人ホーム第2共愛の里)
サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	眠りスキャン (N-1320) / 眠りスキャン eye (KX-Z8192)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月22日	セット30台 眠りスキャンのみ10台	令和3年10月12日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】			
・各フロアで転倒のリスクが高い方や状態の変化に気を配る必要の高い方を中心に設置しています。人数としては全体の1/3ほど。			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
・導入当初から安心できるとの声が非常に多く、夜間帯における介護職員の精神的負担軽減に大きな効果が続いています。また、機器の操作にも慣れてきており転倒があった時にどのように転んだのかを確認して対策を考えられるなど安全面での交換も出てきています。			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
常勤職員 40名 (夜勤可 29名) 非常勤 (短時間パート) 6名	常勤職員 40名 (夜勤可 29名) 非常勤 (短時間パート) 6名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
常勤職員 36名 (夜勤可 32名) 非常勤 (短時間パート) 4名	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りカメラ導入に伴い、フロアや時間帯の人員配置を見直したため	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
見守りカメラにより動きの無駄が減ったことで、人員の配置を見直し削減できた。また、精神的な安心感とともに介護記録などのICT化により文章を書くことが苦手な人も夜勤に入りやすくなり夜勤可能や職員が増えた。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
見守りカメラ余分な動きが大幅に減ったことで身体的な負担は軽減され、夜勤での仮眠も交代でしっかり取れています。 レム睡眠状態、ノンレム睡眠状態なのかのデータも取れるので利用者の入眠状況を観察して夜間のトイレ誘導のタイミングや日中のケアにつなげていきたい。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
まだ夜間の排泄失敗をなくしたり、昼夜逆転の方をゼロにするなどの明らかに目に見える歩言うほどの変化はないが睡眠状況の観察からの改善に取り組んでいく。 転倒についてもゼロにはできないが、起き上がりなどに気づき対応することで導入以前と比べるとベッドからの転倒は減っている。 現在はまだ外国人就労者はいないが、今後は特定技能実習の外国人を雇用する予定。書くことが苦手な人が多いと聞くのでテンプレを増やしてわかりやすく使いやすくしたい。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人 和光会)
 事業所名 (介護老人保健施設 清風苑)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りシステム	エスパイアシリーズベッド (KA-N1411H)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月24日	35	令和3年11月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>現在、センサー内蔵のベッドを2Fフロアで19台、4Fフロアで16台配置し使用している。各フロアにおいては、ナースコールの使用が難しい方やベッドからの起立時や車椅子への移乗時に転倒のリスクが高い方を人選し使用している状況である。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>従来のセンサーマットでは、ベッド上に設置するタイプと足元に設置するタイプに分かれていたが、台数が限られる中、利用者の状態に応じてセンサーを使い分けたり、その都度設置するセンサーを入れ替えたりとスタッフの労力も非常に大きなものであった。昨年導入したのセンサー付きベッドでは、利用者の状態に応じて起き上がり・端座位・離床時・見守り等のパターンをそれぞれ設定する事が出来る為、利用者の個々の状態に応じて対応がしやすくなった。またベッドとセンサーが内蔵(一体化)されている為、以前使用していた単独型センサー特有の位置のズレが無くなり、誤報やエラーも大幅に減少した。また利用者の体重も含めて動作環境を設定できる為、本来、必要の無いセンサー反応(エラー)も減少し、スタッフの無駄な労力等の低下につながった。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2.8:1	2.9:1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2.7:1	
②と③が異なる場合はその理由	
<p>令和4年度はコロナの影響により、8月と12月において苑内の大規模クラスターが発生した。その影響で全体の利用者数が大幅に減少した。看護や介護の職員数は大幅に変動する事は無かった為、結果的に人員体制（マンパワー）は②の数値より上回る事が出来た。</p>	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>今までのセンサーマットでは、利用者の状態に応じてベッド上に設置するタイプや足元に設置するタイプを使い分けていたが、時には両方使用したり、また一時的に片方だけで良かったりとスタッフも設置に関する時間的な労力が非常に多かった。また利用者が少し動くだけで誤報も多く、頻繁に居室を訪問するも必要の無い訪問だったりする事が散見された。</p> <p>新たなセンサー付きベッドでは、センサー機能の様々な設定が手元スイッチ1つで可能であり、センサー取り付けにおける無駄な作業時間を大幅に減少でき、この時間をケア記録の作成やミーティングの時間に使う事が出来き、業務内容の大幅な改善が図れた。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>ベッドに予めセンサーが内蔵されている事により、センサー設置に関する業務時間が大幅に短縮された。具体的には既存のセンサーの場合、利用者一旦ベッドから離れてもらい、センサーを設置した後に再び入所者に臥床して頂き、センサーの反応を確認する。場合によってはもう一度ベッドから離れてもらい、再度センサーの位置を調整する等、1つのセンサーを設置するだけでも30分程度の時間を要する事もあった。それが利用者がベッドから離れる事無く、手元スイッチで必要なデータ（体重や位置）を設定するだけで速やかにセンサーが利用できる事となった事はケア時間の確保に大いに役立つ事となった。また誤報等も減り、コール音による同室者の睡眠を妨げたりという事も減少した為、利用者の安眠確保につながっている。職員自身も不要なラウンドを減少させる事が出来、ステーションでの事務作業や記録に取り組む時間を確保し、特に夜勤帯においては休憩時間を大幅に確保出来る様になった。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>センサー付きベッドと併せ、同じパラマウント社製の眠りスキャンも5台導入させて頂いた事に伴い、ベッドと眠りスキャンを同時に使用し、この両者を組み合わせる事によって、センサーの機能と利用者のバイタルサイン両方が一度にモニタリング出来る事となり、今後、スタッフの労力低下に更に貢献できるのでは無いかと考えている。</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人 和光会)

事業所名 (介護老人保健施設 清風苑)

サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守りシステム		眠りスキャン NN-1320	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月24日	2	令和3年11月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>認知症の利用者が大半を占める3階フロアにて毎日24時間使用している。令和4年度も新たに3台導入し、合計5台使用している状況である。</p> <p>同じフロア内のナースステーションにモニタリング用のパソコンを設置し、いつでも利用者の様子を見ることが出来る。またスマートフォンも2台準備し、Wi-Fi環境を経由してスタッフはどこに居ても利用者の状況をリアルタイムに把握出来る環境あり。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規の入所者には1週間程度、眠りスキャンを利用する事としている。その事により、新しい入所者の生活リズムを客観的に把握できる様になり、入所者に対するアプローチ方法をスタッフ全員でデータに基づき共有出来る事となった。 ・具体的には、利用者の覚醒や離床が把握できる事に伴い、転倒リスクが高いか否かの判定や転倒が発生した場合も迅速な対応が出来る。 ・夜間帯などはモニターやスマホ等で呼吸・睡眠状況を把握できる事により、訪室回数を減少する事も出来、職員の精神的・身体的負担の軽減に大きくつながっている。 ・入所者の身体機能の変化等も早期発見できる事となり、この部分においても職員の負担軽減に大きく貢献している。 ・終末期のターミナルケアを実施する際に、眠りスキャンを利用する事により、利用者のバイタルサインをスマートフォンで確認できる様になり、スタッフの訪室回数の大幅な低減につながる事が出来た。 			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2.8:1	2.9:1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2.7:1	
②と③が異なる場合はその理由	
<p>令和4年度はコロナの影響により、8月と12月において苑内の大規模クラスターが発生した。その影響で全体の利用者数が大幅に減少した。看護や介護の職員数は大幅に変動する事は無かった為、結果的に人員体制（マンパワー）は②の数値より上回る事が出来た。</p>	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>見守り機器（眠りスキャン）を導入した事に伴い、入所者の夜間の睡眠状況をパソコン上で確認できるようになった。また過去の睡眠データ等も遡り確認する事も出来、結果的に夜間帯にどの時間やタイミングで訪室すれば良いか等の予測も立てる事が出来る様になり、不必要な訪室回数を大幅に減らす事が出来た。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>訪室が必要で無い方の部屋を訪問する事が減る事や、同室者の介護の際の音で睡眠を妨げたりという事が減少した為、利用者の安眠確保につなげる事が出来た。また職員自身も不要なラウンドを減少させる事が出来た為、ステーションでの事務作業に取り組む時間を確保できるようになった。特に夜間の不必要な訪問を減少させる事が出来た事は、夜勤者の休憩時間の確保に大きく貢献できる事となった。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>今までは、60歳近い職員より夜勤は体力的に辛い、等の発言があったが、この見守りシステムを導入させて頂いた事で、大きな業務改善を実施する事が出来た。夜勤帯の身体的・精神的な負担を減少させる事が出来た為、60歳を超えても夜勤を継続して出来る者が増える事が期待出来る。今年度も65歳になる介護職員が、現状の体制であれば夜勤は可能です・・・等の発言も確認出来ている。</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人順明会)
 事業所名 (介護老人福祉施設 ジャルダン・リラ)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り	眠り SCAN		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月25日	35台	令和4年3月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>スマートフォンやパソコンからコールが鳴る設定を担当管轄ごとに変更しながら利用しています。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>介護時間の短縮について…夜間の見守りで1階と2階を定時で行き来していた巡視をご利用者の状態に合わせた随時の巡視が出来るようになった。</p> <p>直接・関節の軽減効果…夜間帯に24時間シートなどご利用者に係る事務仕事をする時間を増やすことが出来た。</p> <p>介護従事者の満足度…夜間帯に階段を何度も行き来するのが辛いと考えていた高年齢の介護従事者の負担が減り、夜勤の勤務をこれからも長期間継続できることとなった。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
3.1 : 1	2.9 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
変化なし	
②と③が異なる場合はその理由	
現状、奇数ユニットが存在することから人員基準を下回る配置となる為、困難。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
スマートフォンを活用して介助中であっても異常を知ることが出来るようにした。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
利用者の睡眠状態を可視化することが出来るので夜間の不眠状態が分かり、日中活動の計画に活かすことが出来る。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
体調不良のご利用者様へ使用することにより急変時において早急な処置・対応を行うことが出来ると考えております。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 貞徳会)

事業所名 (明範荘特別養護老人ホーム)

サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り	眠りSCAN / 眠りSCAN eye (バラマウントベッド株式会社)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月22日	12台	令和3年12月22日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

一昨年度に導入した機器を含め、施設（特別養護老人ホーム・ショートステイ）内の眠りSCANの整備台数が52台となり、各ユニットに4台を配置している。ユニット内ではiPad、介護ステーションではPCを利用して睡眠状況等をモニターしている。また、介護記録ソフトと連携し、介護記録に定時巡回状況（在床・心拍・呼吸）やアラート設定（離床・呼吸や心拍の増減）した情報が自動記録できる仕組みとなっている。

＜活用方法＞

- ・睡眠状況を把握し、日中の活動意欲を高め、睡眠の質を良くする。
- ・睡眠状況を把握し、眠りの妨げにならないよう、訪室及びおむつ交換を実施する。
- ・睡眠状況を把握し、朝の起床を適切な時間に促す。
- ・心拍数や呼吸状態を把握し、体調の変化を観察及び記録する。
- ・利用時に使用し、睡眠リズムをはじめとして生活状況の把握を行う。
- ・認知症等の精神不安定な利用者に使用し、夜間の異常行動をタイムリーに把握する。
- ・離床センサーとして活用し、転倒の危険性を察知し、事故予防に活用する。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・利用者様の日中の活動意欲を引き出す支援を検討するようになった。
- ・利用者様の安眠が保てるようになった。
- ・職員の過度な訪室が減少し、身体的・精神的負担が減少した。
- ・夜間の適切なおむつ交換に努め、皮膚トラブルが減少した。
- ・呼吸や心拍数の状況から、熱発や痰がらみ等の体調変化を把握できるようになった。
- ・ケアマネジャーや家族へ実際の睡眠状況をデータ提供できた。
- ・コロナ感染者の施設療養対応の際、眠りSCANや眠りSCANeyeを活用する事で、間接的な見守りが実施できた事で、感染リスクの低減を図れた。

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
介護職員：利用者定員／2.10：1	介護職員：利用者定員／2.10：1 (現状維持)
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
介護職員：利用者定員／2.05：1	
②と③が異なる場合はその理由	
<p>人員体制はやや充実したが、ユニット型施設の配置基準を維持するための最低限の増員、補充のみで、概ね目標とした水準で推移している。</p> <p>介護ロボットを毎年のように増設開始したH29年には1.90：1だった配置がH30年は1.98：1、R1年は2.02：1と、R2年は2.10：1と徐々に人員配置数が緩まり、生産性向上に繋がっている。</p> <p>R3年の2.05：1からR4年は2.01：1と人員が増員されているが、翌年度に新規開設施設の職員として既存施設で採用していたため。</p>	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>眠りSCAN及び眠りSCANeyeを活用した、効果的な活用方法のマニュアル化は実現していないが、導入後まもなく発生したコロナ感染対応にて、必要以上の訪室（接触）が避けられるよう遠隔からセンサー、カメラを通じた見守りを行う等の対応に活用できた。</p> <p>今後は感染対応等を通じて見出した活用をマニュアル化し、センサー等を活用した効率的な見守り業務の標準化を図り、動線の短縮化、業務効率化などの業務改善を図りたい。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>眠りSCANeyeを併用することで、眠りSCANのアラートがあった際、まずはカメラ映像にて状況確認したうえで即時対応すべきか判断できた。アラートあれば即座に駆けつけなければならないといった、急かされる場面は減少した。</p> <p>また、事故リスクや睡眠リズムが整っていない利用者に対しては、直接訪室しなくても遠隔で状況把握できる事で、随時巡視の移動・訪室対応の時間が省略でき、他の業務へ充てられた。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>眠りSCAN及び眠りSCANeyeの活用場面をより具体的に定め、マニュアル化して介護ロボット活用を促進し、利用者へエビデンスに基づいたケア提供や接遇の充実化を図りたい。そして、効果的なケア実践を通して、利用者の心身の健康保持による在所期間の延長や利用率、利用者満足度（CS）の向上の実現を目指したい。</p> <p>また、利用者満足度の高いケア実践が行えれば、自ずと介護職員のやりがいや達成感も高まり、職員の満足度の向上にも繋がる。これらの成果が、介護の仕事の魅力を創出し、介護職員の待遇改善を図る形となり、結果的に介護職員の定着や確保、安定した施設運営基盤づくりに寄与される事を期待する。</p>	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 かなえ福祉会)
事業所名 (ショートステイ すないの家 春日井)
サービス種別 (短期入所生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	テクノスジャパン コールマット・コードレス		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月8日	6台	令和3年11月8日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

ベッドからの転倒・転落リスクが高い方を中心に利用者を選定し、危険度が高いと判断した方の居室に配置。

状況に合わせてセンサーを稼働させ、見守りを開始した。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

※夜間帯に職員が少なく、十分な見守りができない時があるが、センサーマットがある事で夜勤職員の精神的負担の軽減や入居者様の動作の早期発見に繋がれている。

※ふらつきのある方が、ベッドから降りて独歩で歩行してしまい転倒してしまう事故が多かったが、センサーマットが稼働しているので、未然に事故を防げている。

※利用者様の行動パターンを把握・分析する事ができている。(何時にトイレに行くのか?、何時に起床しはじめるのか等の分析)

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人長寿会)
 事業所名 (特別養護老人ホームシルバーピアみずほ)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	見守り支援システム「眠り SCAN・眠り SCAN eye(パラマウント社製)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月16日	眠り SCAN10台	令和3年12月16日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

「眠り SCAN」は主に夜間帯の見守り業務の一環として使用をしている(入居者様の睡眠・バイタル状況の確認)。優先順位をつけて、必要な方に使用をしている。また、併せて「眠り SCANeye」を使用することにより、居室内の映像が見られるため、より正確に居室内の様子を確認し、状況に合わせた対応が可能となっている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

「眠り SCAN」にて各入居者様の睡眠・バイタル状況が確認できるため、入居者様の生活リズムに合わせて、訪室・ケアの提供が可能になっている。また、夜間不穏行動のある入居者様の転倒などが未然に防げている。排泄介助の際も、睡眠状況に合わせてケアに入れているため、スタッフの精神的な負担を軽減、入居者様の安眠の確保にもつなげることができている。

「眠り SCANeye」を併用することで、訪室せずに状況確認ができているため、身体的な負担も軽減させることができている。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 悠)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 結いの郷)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	眠りスキャン NN-1320		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月24日	1	令和4年3月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- (1)事業所内にWi-Fi通信環境を整備し、介護記録ソフトの導入。各ユニット内(3ユニット+看護)にてタブレット端末使用による間接的業務の削減をし、使用している
- (2)職員間の情報共有における移動時間短縮に備えて、インカムを12台導入予定。また、イヤホンジャックについては、各職員向けにて用意し、使用している
- (3)眠りスキャン(パラマウント製)と導入を予定している介護記録ソフト「ほのぼのシリーズ」と連動することから、夜勤時における見守り軽減に加え、記録事務作業の軽減している。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- (1)間接支援の軽減(記録、職員間のコミュニケーションの情報共有)を目標とする。
- 記録ソフト導入に伴い、間接業務の時間的軽減に繋がっている。また各職種の一斉閲覧が可能であり、情報の共有化は今のところ効果は大きいと捉えている。
 - インカム導入に伴い、情報発信の一斉連絡が可能であり、有事災害時においても効果は大きい。
- (2)間接支援の軽減に加え、直接支援の質の充実を目標とする
- 日勤帯において、研修機会の充実(事業計画書内に記載)、キャリアコンサルタントによるセルフキャリアドック導入し、支援員への面談の機会を増やす。メンタルケアの充実を図り、日々の支援の充実を施したい。
 - 夜間帯において、十分な休憩時間の確保が出来た
- (3)職員に対する間接支援の軽減に伴う満足度アンケートを導入半年後、1年後と行う。
- 質の向上に繋がる結果として、入居者及びご家族に対しても満足度アンケートを半年後、1年後と行う
- 導入1年後、実際、直接的支援の時間に集中することができている評価が多い
- 導入1年後、ご家族よりの情報が共有化されているなど、一定の満足した評価を得ている。
- 従来介護記録を手書きで行ってきた。また、各種計画書類もそれぞれ独自のExcelにて連動性に欠けていたため、今回導入に伴い、それぞれの間接支援を軽減することで、職員一人一人が直接支援に集中できる環境を準備したい。結果、事業所全体における質の向上を目的として、暮らす場所における入居者QOLの向上に努めていきたい。
- 導入1年後、タブレットに慣れてきた職員も多い。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1.62:1	1.5:1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
1.7:1	
②と③が異なる場合はその理由	
現在、採用活動中	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>当事業所においては、ユニット型特別養護老人ホームであり、3ユニット/29人の入居者が過ごされています。</p> <p>3つのユニット（家）が分離されており、それぞれの玄関口より日中は出入りしております。また、夜間帯については、各玄関口を施錠し、内扉を利用して支援をさせて頂いております。</p> <p>日中、各家が独立していることから、インカムを活用して、職員の動線の短縮に努め、間接支援の軽減に努めていきたい。また、従来介護記録を手書きであったことから、介護記録ソフト導入することで、ケアプラン⇒24Hシート⇒生活記録の一連の流れを通して、間接支援の軽減に努めていきたい。各ユニット（家）内で、i-padを活用し記録の記載を行う。また、「ほのぼのシリーズ」「ケアパレット」にてホストコンピュータとの記録の連動を行う。眠りスキャンにおいて、夜間帯なかなか眠りが浅い方について、定時での訪室を行わず、安眠確保に努める。結果、直接支援の質の担保に繋げていく。</p> <p>○導入後、1年が経過し、情報の共有における時間的短縮を十分な効果が出ている</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>現在、夜勤配置を3ユニット（29人）に対して2名で行っている。眠りスキャンを始めとして、介護ロボットの積極的な利用にすることで、間接支援を減らし、直接支援を充実し、質の維持をすることで、職員一人一人の福祉のやりに繋がっていききたい。結果、夜勤配置を3ユニット（29人）に対して3名体制を構築することで、未経験や新入職員にとっても安心して支援できる環境を整え、しっかりと休憩を取れるような体制に繋がっていききたい。また、職員の定着に際し、間接支援を減らすことで、法定研修に加えて、基本的な介護技術、知識の研修など、未経験の職員においても、必要資格を取得していくための、社内研修の充実、社外研修への積極的な参加を以て、ひとり一人のスキルアップに繋がっていききたい。</p> <p>○社内研修において、eラーニング方式を導入するなど、有効活用している。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>上記にも記載の通り、介護ロボット導入に伴い、人員配置を減少だけを目的とせず、未経験の職員でも、安心して支援できる環境づくり、専門職としてのスキルアップに繋がる効果を期待している。</p> <p>あくまで間接支援の軽減に努めることで、直接支援を安心して、穏やかに、支援していく。結果、入居者とゆっくり関わることが出来る環境を整えていきたい。介護福祉事業における離職の原因として、職員間のコミュニケーションが大半となっております。入居者ひとり一人とゆっくりしっかり関わることのできる環境を整えること、コミュニケーションの行き違いを出来るだけ減らすことで、離職率の低下に努めていきたい。また、未経験や無資格、新入職員が安心して入居者ひとり一人と関わることが出来る環境（研修機会の増加、定着率の安定）を整えていくことが、結果質の維持を及び向上の効果を期待している。（継続）</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社 安芳)

事業所名 (介護付有料老人ホーム 永遠の郷)

サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	パラマウントベッド エスパイアシリーズ		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月24日	29	令和4年3月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- (1) Wi-Fi 通信環境を整備し、介護記録ソフト、請求ソフトを導入。また各フロアにてタブレット端末使用による間接的業務の削減を目的とする
- (2) 職員間の情報共有における移動時間短縮に備えて、インカム12台導入。
- (3) 眠りスキャン (パラマウント製) と介護記録ソフト、請求ソフト「ほのぼのシリーズ」と連動、センサーベッドを活用し、夜勤時における見守り軽減に加え、記録事務作業の軽減に繋がっている。

○導入1年後、引き続き使用している

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- (1) 間接支援の軽減 (記録時間の短縮・職員間のコミュニケーションにおける動線の短縮)
 - ☛ 記録時間として、手書き用紙を準備することがなくなり、導入直後の戸惑いはあるものの、間接時間の短縮に繋がっている。
 - ☛ インカム導入に伴い、情報の周知の簡略化、合理化が十分に図れている
- (2) 直接支援の質の充実を図る。加えて、時間内での勉強会・研修に時間を充てる。
 - ☛ 年間計画書における研修の機会を増加。1回/月 全職員での研修会実施予定
- (3) 眠りスキャンの活用に伴い、夜間帯での休憩時間の確保
 - ☛ 30人の入居者に対して、2人の夜勤で対応しているが、今のところそれぞれの休憩が取れている。
- (4) 満足度アンケートを導入半年後、1年度と行う
 - ☛ 令和4年10月、令和5年3月に実施予定

○導入1年後、アンケート実施後、職員よりの一定の満足した評価を得た

○導入1年後、アンケート実施後、ご家族からの電話の取次ぎにおける時間の短縮、情報の共有化など、満足した評価を得た

従来介護記録を手書きで行ってきたため、間接支援を軽減することで、職員ひとり一人が直接支援に集中できる環境を準備。未だ導入したてではあるため、今後の効果に期待したい。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2. 0 : 1	1. 6 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
1. 9 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
継続的に採用活動中	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>インカムを使用し、職員の動線の短縮に努め、間接支援の軽減に努めていく。また、従来介護記録を手書きであったことから、介護記録ソフト、請求ソフトを導入することで、間接支援の軽減に努めていく。フロア内で、iPadを活用し記録の記載を行い、間接業務の簡略化を図る。眠りスキャンを用いて、夜間帯なかなか眠りが浅い方について、定時での訪室を行わず、安眠確保に努め、直接支援の質に繋げていく。また、休憩時間の確保に努める。</p> <p>○導入1年後、間接的支援の軽減できたため、休憩時間の確保が出来ている</p>	
<p>利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組</p> <p>夜間帯の支援量を軽減することで、休憩時間の確保に努める。</p> <p>また、職員の定着に効果を求め、研修、勉強会、そして資格取得支援への充実に関心していく。</p> <p>○導入1年後、引き続き、研修、勉強会を充実し、資格取得支援への充実に関心していく</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>介護ロボット導入に伴い、人員配置を減少だけを目的とせず、未経験の職員でも、安心して支援できる環境づくり、専門職としてのスキルアップに繋がる効果を期待している。</p> <p>あくまで間接支援の軽減に努めることで、直接支援を安心して、穏やかに、支援していく。結果、入居者とゆっくり関わることが出来る環境を整えていきたい。介護福祉事業における離職の原因として、職員間のコミュニケーションが大半となっております。入居者ひとり一人とゆっくりしっかり関わることのできる環境を整えること、コミュニケーションの行き違いを出来るだけ減らすことで、離職率の低下に努めていきたい。また、未経験や無資格、新入職員が安心して入居者ひとり一人と関わることが出来る環境（研修機会の増加、定着率の安定）を整えていくことが、結果質の維持を及び向上の効果を期待している。</p> <p>○導入1年後、引き続き期待している</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社 安芳)
 事業所名 (介護付有料老人ホーム 永遠の郷)
 サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	パラマウントベッド 眠りスキャン NN-1320		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月24日	1	令和4年3月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

(1) Wi-Fi 通信環境を整備し、介護記録ソフト、請求ソフトを導入。また各フロアにてタブレット端末使用による間接的業務の削減を目的とする

(2) 職間の情報共有における移動時間短縮に備えて、インカム 12 台導入。

(3) 眠りスキャン (パラマウント製) と介護記録ソフト、請求ソフト「ほのぼのシリーズ」と連動、センサーベッドを活用し、夜勤時における見守り軽減に加え、記録事務作業の軽減に繋がっている。

○導入1年後 引き続き使用している

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

(1) 間接支援の軽減 (記録時間の短縮・職員間のコミュニケーションにおける動線の短縮)

- ☑ 記録時間として、手書き用紙を準備することがなくなり、導入直後の戸惑いはあるものの、間接時間の短縮に繋がっている。
- ☑ インカム導入に伴い、情報の周知の簡略化、合理化が十分に図れている

(2) 直接支援の質の充実を図る。加えて、時間内での勉強会・研修に時間を充てる。

- ☑ 年間計画書における研修の機会を増加。1回/月 全職員での研修会実施予定

(3) 眠りスキャンの活用に伴い、夜間帯での休憩時間の確保

- ☑ 30人の入居者に対して、2人の夜勤で対応しているが、今のところそれぞれの休憩が取れている。

(4) 満足度アンケートを導入半年後、1年度と行う

- ☑ 令和4年10月、令和5年3月に実施

○導入1年後 職員向けアンケート結果 十分な満足を得ている

○導入1年後 ご家族向けアンケート結果 電話の取次ぎの短縮、情報の共有の充実など一定の満足を得ている

従来介護記録を手書きで行ってきたため、間接支援を軽減することで、職員ひとり一人が直接支援に集中できる環境を準備。未だ導入したてではあるため、今後の効果に期待したい。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2. 0 : 1	1. 6 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
1. 9 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
継続的に採用活動中	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
インカムを使用し、職員の動線の短縮に努め、間接支援の軽減に努めていく。また、従来介護記録を手書きであったことから、介護記録ソフト、請求ソフトを導入することで、間接支援の軽減に努めていく。フロア内で、iPadを活用し記録の記載を行い、間接業務の簡略化を図る。眠りスキャンを用いて、夜間帯なかなか眠りが浅い方について、定時での訪室を行わず、安眠確保に努め、直接支援の質に繋げていく。また、休憩時間の確保に努める。 ○導入1年後 間接支援の時間を軽減することができており、職員の休憩時間は確保できている	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 夜間帯の支援量を軽減することで、休憩時間の確保に努める。 また、職員の定着に効果を求め、研修、勉強会、そして資格取得支援への充実に繋げていく。 ○導入1年後 引き続き研修会、勉強会の充実に図っており、資格取得支援の充実に繋がっている	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
介護ロボット導入に伴い、人員配置を減少だけを目的とせず、未経験の職員でも、安心して支援できる環境づくり、専門職としてのスキルアップに繋がる効果を期待している。 あくまで間接支援の軽減に努めることで、直接支援を安心して、穏やかに、支援していく。結果、入居者とゆっくり関わることが出来る環境を整えていきたい。介護福祉事業における離職の原因として、職員間のコミュニケーションが大半となっております。入居者ひとり一人とゆっくりしっかり関わることのできる環境を整えること、コミュニケーションの行き違いを出来るだけ減らすことで、離職率の低下に努めていきたい。また、未経験や無資格、新入職員が安心して入居者ひとり一人と関わることが出来る環境（研修機会の増加、定着率の安定）を整えていくことが、結果質の維持を及び向上の効果を期待している。 <u>(継続)</u>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人フロンティア)
 事業所名 (特別養護老人ホームみなの憩)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りシステム	無線コールシステム「あんしんの絆」ワイヤレス人感センサー		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月25日	29台分	令和4年3月25日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

○事業概要

- ・見守りシステムの導入により、見守り業務（特に夜勤帯）の業務効率の向上、利用者様の安心安全な住環境整備、介護職員の生産性向上ならびに負担軽減を図りました。
- ・強力な無線LAN環境を整備し、施設内全域において、見守りシステムと職員が保有する携帯端末が円滑にネットワークアクセス出来る通信環境を整備しました。
- ・見守りシステムは、ご利用者様にナースコール、またなんらかの移動、転倒等が起きた際に、自動的に職員が所持する携帯端末にアラートが鳴ると同時に、その5分前からの映像が自動に保存されるシステムです。
- ・また、事務所に設置されたモニターには、全居室に映像を逐一確認することができ、職員の生産性が向上し、かつ、ご利用者様の見守りの精度も上がりました。

○導入

- ・令和4年3月25日 導入日
- ・令和4年4月1日 準運用開始（シフト変更 2か月試行期間）
- ・令和4年6月1日 夜勤2人体制に移行

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・ナースコールが同時発生した場合、瞬時に優先度を把握し、事故抑止につながっています。
- ・万が一事故が発生した場合、その原因分析を行い、再発防止策を講じることが出来るようになりました。
- ・不要な訪室を減らすことにより、利用者様がより質の高い睡眠を確保出来るようになりました。
- ・当初、不安に思っていた職員もシステムの安全性を理解し、質の高い介護サービスを提供できるようになりました。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
深夜帯（20時～翌7時）における人員体制 2階 1人 3階 1人 4階 1人	深夜帯（20時～翌7時）における人員体制 2階 1人 3階 0人 4階 1人
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
深夜帯（20時～翌7時）における人員体制 2階 1人 3階 0人 4階 1人	
②と③が異なる場合はその理由	
予定通りに、人員削減につながりました。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・無線コールシステム「あんしんの絆」の最大の特徴は、ナースコール呼び出し時において、同時進行的に居室の可視化を図ることにより、職員が訪室の優先度を施設のどの場所においても、瞬時に判別できることにあります。 ・特に夜勤時において、当該職員は、手持ちの携帯端末を外線電話と連動することにより、施設外線電話、ナースコール、居室内の状態確認が、瞬時に対応出来ます。また、素早く訪室することにより、転倒転落事故を未然に防ぐことも可能となり、一人一人の職員の介護サービスの質が飛躍的に向上すると同時に、生産性向上にもつながりました。 ・結果として、当施設では、これまで原則、1ユニット1名（施設全体3ユニット3名）の夜勤職員体制をしてきましたが、本システム本格導入後、夜勤体制の人員を削減しても、より質の高いサービスが提供出来ることを前提に、事業所全体3ユニットで2名の夜勤職員体制に移行することができました。これによって、施設全体の職員の労務負担を軽減出来ると同時に、シフト削減によって削減された人件費は、夜勤職員に配分すると同時に、施設職員福利厚生費に充当しました。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・携帯端末から、利用者様の状況を適宜映像で確認することにより、不要な訪室を削減することが出来ます。これによって、利用者様の睡眠の質が向上し、当社が目標とする「夜間ぐっすりプロジェクト」を推進することができるようになりました。 ・「夜間ぐっすりプロジェクト」とは、医師と連携協力し、利用者様に質の高い睡眠をとっていただき、生活リズムを整え、より健康的に暮らしていただくことを目指す取り組みです。 ・結果的に本プロジェクトの推進により、夜勤職員の労務は軽減され、見守り業務に徹することにより、効率的に休憩時間を確保することが出来ることになりました。 ・また、本システム導入により、万が一発生した居室内の転倒転落事故に対し、その原因分析を具体的にまた速やかに実施し、再発防止策を講ずることが出来るようになり、結果として、行政、医療関係者、家族様に的確に状況を説明させていただき、より安心していただくことが可能となりました。これにより、事故対応に要していた人員、時間の削減ができました。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・総合的に見守り体制が強化され、昼夜を問わず、ナースコールによって利用者様と職員が密にコミュニケーションを図ることが出来、介護サービスの質の向上につながりました。 ・ご利用者様の転倒・転落のメカニズムを探ることも可能となり、事故防止、より効果的な再発防止策を講じることが可能となりました。 ・本システムが、一人夜勤体制の職員をある意味、監理監督する役割も果たし、職員の意識改革、業務改善（業務怠慢の抑止）を促すことになりました。 	